

平成30年度
原子力施設等防災対策等委託費
(原子力災害医療に関する研修の実効性向上) 事業
成果報告書

平成31年3月

公益財団法人 原子力安全研究協会

本報告書は、原子力規制庁委託事業による委託業務として、公益財団法人原子力安全研究協会が実施した平成30年度原子力施設等防災対策等委託費（原子力災害医療に関する研修の実効性向上）事業の成果をとりまとめたものです。

目 次

第1章	はじめに	1
第2章	講師養成講座受講者の選定および講師養成講座の実施	2
2.1	講師養成講座受講者の選定	2
2.2	講師養成講座の実施	4
2.2.1	講師養成講座実施等見直し	4
2.2.2	基礎研修	6
2.2.3	実践研修（避難退域時検査・簡易除染）	8
2.2.4	実践研修（被ばく傷病者等搬送）	10
2.2.5	実践研修（医療機関の対応）	12
2.2.6	実践研修（安定ヨウ素剤等）	14
第3章	eラーニングの実施	17
3.1	コンテンツの整備	17
3.1.1	コンテンツの充実化	17
3.2	関係機関への周知	17
第4章	講師ネットワークの拡充	18
4.1	概要	18
4.2	受講修了者アンケート調査の実施	18
4.3	受講者（将来の講師）の状況把握調査	18
4.4	講師交流会	18
第5章	おわりに	20
参考資料		
1.	推薦者記入用紙	25
2.	講座実施状況（基礎研修）	29
3.	アンケート結果（基礎研修）	30
4.	講座実施状況（実践研修 避難退域時検査・簡易除染）	33
5.	アンケート結果（実践研修 避難退域時検査・簡易除染）	34
6.	講座実施状況（実践研修 被ばく傷病者等搬送）	37
7.	アンケート結果（実践研修 被ばく傷病者等搬送）	38

8. 講座実施状況（実践研修 医療機関の対応）	41
9. アンケート結果（実践研修 医療機関の対応）	42
10. 講座実施状況（実践研修 安定ヨウ素剤等）	45
11. アンケート結果（実践研修 安定ヨウ素剤等）	46
12. 受講修了者アンケート調査結果	49
13. 受講者の状況把握調査結果	52

第1章 はじめに

地域の原子力災害時医療活動の実効性を確保するためには、原子力災害対策指針等を踏まえた医療・搬送等の関係者向けの研修が必須である。本事業は、立地道府県等や原子力災害拠点病院が実施する基礎的な研修および実践的な研修を行うことができる講師の養成を目指すことを目的としている。

公益財団法人原子力安全研究協会は、

- ①専門的人材を有し、原子力災害時の対応に経験があること。
- ②原子力災害時医療研修等の豊富な経験があること。
- ③関係学会や関係機関および関係者とのネットワークを構築していること。

など、これまでの経験を基に、本事業を受託し、今後各地域で講師を務めるに適した者を養成すべく、基礎研修と実践研修の5つの講師養成講座について、カリキュラムおよび教材を作成し、5講座全体で15回実施した。

また、講師養成講座の修了者が円滑に情報交換、情報共有を行えるようなネットワークを拡充するため講師候補が集う講師交流会を開催した。

なお、本報告書においては、研修、講師等の用語について、複数の意味が生じるため、以下のとおり用語を定義づけるものとする。

・原子力災害時の医療に関わる研修関連用語

研修：原子炉施設等立地道府県等内の原子力災害医療に関係する者に対して実施する基礎的な研修及び実践的な研修

・講師養成講座関連用語

講師養成講座：原子炉施設等立地道府県等内において実施する「研修」の講師を務めるに適した者を対象として、「研修」の講師を養成するために実施する「原子力災害時の医療に関わる研修講師養成講座」

指導者：講師養成講座において講師を務める者

受講者：講師養成講座を受講し、将来的に研修の講師となることが期待される者

講師役：実習シミュレーションにおいて講師を担当する受講者

受講生役：実習シミュレーションにおいて受講生を担当する受講者

第2章 講師養成講座受講者の選定および講師養成講座の実施

2.1 講師養成講座受講者の選定

今年度は以下の講師養成講座①②③④及び⑤の5講座の開催を計画し、13地域24道府県^(注1)の原子力災害医療担当窓口に対し、講師養成講座の趣旨およびカリキュラム等を記した開催要領を使って説明を行い、今後、地域で実施することとなる研修の講師候補となる受講者の推薦を依頼した。

結果、15回開催（各開催当たりの定員が13名程度）合計195名程度の定員に対して、のべ181名の受講があった。

※なお、養成を行う受講者については、原子力災害時医療に携わる人材を広く確保する目的等もあるが、講師となるための資質を求めることも重要であることから、今年度は、自治体からの推薦者に対して一定の基準を設け、満たしていない者については、選定から除外する等の対応をとった。

実施したコースおよび開催回数

講師養成講座①	基礎研修	4回
講師養成講座②	実践研修（避難退域時検査・簡易除染）	4回
講師養成講座③	実践研修（被ばく傷病者等搬送）	2回
講師養成講座④	実践研修（医療機関の対応）	3回
講師養成講座⑤	実践研修（安定ヨウ素剤等）	2回

（注1）対象の原子力発電施設等周辺13地域

- ①北海道、②青森県、③宮城県、④福島県、⑤新潟県、⑥茨城県・神奈川県、
⑦静岡県、⑧石川県・富山県、⑨福井県・岐阜県・滋賀県・京都府・大阪府、
⑩島根県・鳥取県・岡山県、⑪愛媛県・山口県、⑫佐賀県・福岡県・長崎県、
⑬鹿児島県

また、推薦する際の選定に当たっては当該地域内で以下の基準を満たす者を該当者とす
るよう依頼した。

○受講者に求められる要件（必修）

- ①今後、地域の原子力災害医療に関わる研修に参加する関係者の教育に熱意を持って当たる意志がある者
- ②地域の原子力災害医療に関与している、あるいは、関与することが予定される者
- ③受講の前に所定の場所（WEB サイト）で公開する研修テキストで事前に学習した上でプレテストを受験し、合格した者
- ④受講を希望する講師養成講座に関連する内容の研修等（原子力災害時の医療に関する研修等※）の受講歴があり当該研修内容を熟知している者

※該当する主な研修の受講歴

関係道府県で実施している原子力災害時の医療に関わる研修、高度被ばく医療支援センターが実施している原子力災害時医療中核人材研修、原子力災害医療・総合支援センターが実施している原子力災害医療派遣チーム研修 等

○受講者の選定について

推薦者記入用紙にある設問内容をもとに一定の知識を持った者を候補者として当協会で選定する。

<選定基準について>

推薦者記入用紙の設問で以下のとおり回答する者を受講者として選定する。

- ①設問 1、2 で受講歴がある者（必須）
- ②設問 3～5 は、「関係者に説明ができる」もしくは「理解できている」と回答する者（中でも「関係者に説明ができる」と回答した者を優先とする）。
- ③多数希望者があり、設問 3～5 の習熟度が同じ場合は、設問 1、2 において受講回数が多い者を優先とする。
- ④多数希望者があり、設問 1～5 までの習熟度が同じ場合は、これまでの本講座受講回数や地域性を鑑みて判断する。

2.2 講師養成講座の実施

昨年度事業において見直した講師養成カリキュラムおよび教材に基づき、講師養成講座5コースについて、各地域で原子力災害拠点病院の指定および原子力災害医療協力機関の登録が進んできた現状から基礎研修や避難退域時検査に関する研修のニーズが高まっていることを鑑み、基礎研修および実践研修（避難退域時検査・簡易除染）を各4回、実践研修（被ばく傷病者等搬送）および実践研修（安定ヨウ素剤等）を各2回、実践研修（医療機関の対応）を3回実施した。なお、開催地は対象となる13地域からの交通アクセスが良く、受講者が集まりやすい東京都内で開催した。

2.2.1 講師養成講座等の見直し

昨年度実施した受講者アンケート結果と指導者打合せ会で出た意見を基に、以下のとおりカリキュラムおよび教材等を見直した。

○カリキュラム

- ・昨年度まで実施していた各コースの講義ロールプレイについては、基本的な指導技法と基礎的な知識が備わっていれば、特に評価する必要がないことから、今年度は受講者が講師役となって講義発表する時間を削除し、指導者によるポイント解説を行った。
- ・講義、実習共に指導者と受講者による双方向型の意見交換を実施し、実施する内容についてより理解を深めてもらう時間を設けた。
- ・背景の異なる受講者がそれぞれの専門知識や指導スキルを共有できるよう、実習シミュレーションの前に実習ガイダンスを設け、受講者同士で講師役をするにあたって事前確認を行った。

○教材

- ・原子力災害対策指針及び原子力災害拠点病院等の施設要件の見直しに伴い、内部専門家によるコメントを集約し、テキストの見直し案を作成した。また、監修者に確認を依頼し承認を受け、テキストの修正版とした。

【修正したテキスト】

- ・原子力災害時の医療に関わる基礎研修テキスト

- ・原子力災害時の医療に関わる実践研修テキスト―避難退域時検査・簡易除染―
- ・原子力災害時の医療に関わる実践研修テキスト―被ばく傷病者等搬送―
- ・原子力災害時の医療に関わる実践研修テキスト―医療機関の対応―
- ・原子力災害時の医療に関わる実践研修テキスト―安定ヨウ素剤等―

○評価方法

- ・実習シミュレーションにおける評価方法について、昨年度までは、話し方・雰囲気等の基本的な指導技法と講師役を行う際に実習テキスト内容に基づきポイントを押さえた説明ができていたかどうかを評価項目としたが、今年度は時間管理ができていたかどうかについてを評価項目に追加した。

○指導方法

- ・実習ロールプレイの際、受講者にポイントを押さえた指導技術の教授を図るため、ロールプレイ中でも気づき事項があった場合には極力進行を妨げないよう心懸けつつ、指導することとした。
- ・指導者による講義ならびに受講者が講師役となる実習シミュレーション終了後、受講者が講師役となり、上手くできたところ、できなかったところ等、全体でフィードバックできるよう意見交換を行いながら指導者が解説を行った。

○その他

- ・受講者には、指導者による講義解説の際、スライド等の活用で不明な点などないか、また、実習シミュレーションで講師役として担当する部分についてテキスト等活用して事前学習するよう案内した。
- ・実践研修の「避難退域時検査・簡易除染」、「被ばく傷病者等搬送」、「医療機関の対応」については、実習用の動画を作成し、受講者に対して事前に視聴学習するよう案内した。
- ・昨年度までは、オリエンテーションの時間を使って指導技法等、講師としての心構えについて説明したが、今年度は指導概論として30分の時間を設け、講義、実習等講師としての教え方、心構え等について、徹底した。

2.2.2 基礎研修

(1)目的

「原子力災害対応要員が安全かつ十分に活動できるための放射線の知識と基本的機材の使用」について「いかに教えるか」を学び、指導技術を習得する。

(2)開催実績

	開催日	開催場所	参加人数 (人)
1	平成30年8月7日(火)～ 平成30年8月8日(水)	公益財団法人原子力安全研究協会 (東京都港区)	13
2	平成30年9月1日(土)～ 平成30年9月2日(日)	公益財団法人原子力安全研究協会 (東京都港区)	12
3	平成30年9月29日(土)～ 平成30年9月30日(日)	公益財団法人原子力安全研究協会 (東京都港区)	12
4	平成30年10月22日(月)～ 平成30年10月23日(火)	公益財団法人原子力安全研究協会 (東京都港区)	14
合計			51

(3)プログラム

基礎研修 プログラム	
【1日目】	
14:00～14:10	開会／オリエンテーション
14:10～14:40	講義：指導概論-本講座の目的と基本的指導技法について-
14:40～14:50	休憩
14:50～16:20	講義：イントロダクション、放射線の基礎知識、人体への影響と放射線防護に関する講義ポイント等の解説
16:20～16:30	休憩
16:30～17:10	実習ロールプレイガイダンス
【2日目】	
9:30～10:50	実習：医療活動に必要な放射線測定 -シミュレーション-
10:50～11:00	休憩
11:00～12:10	実習：医療活動に必要な放射線測定 -インストラクションスキルチェック(解説)-
12:10～12:30	質疑応答／閉会

(4)内容

講義解説、実習シミュレーション、実習解説については、以下のとおり。

講義解説

スライドとテキストを用いて各講義の趣旨、指導ポイントを正しく理解することを目標に指導者による解説および意見交換を実施した。

実習シミュレーション：医療活動に必要な放射線測定

放射線測定実習について受講者が講師役と受講生役に分かれ（交互に交代）実習シミュレーションを行った。実習は、以下のシーンを区分し、その都度、講師役の指導技術について評価を行った。

- ①個人線量計の取り扱い
- ②サーベイメータの取り扱い
 - ・使用前点検
 - ・自然放射線の測定
 - ・マントルの測定
- ③放射線の性質
 - ・垂直方向の距離による変動
 - ・遮蔽物による変動
- ④放射線測定器の特性
 - ・検出器と測定物の位置関係
 - ・検出器の移動速度による変動

実習解説

実習シミュレーション実施後、指導者による原子力災害時の医療活動に必要な放射線測定の取扱いを測定目的に応じた測定器の種類、空間線量率、表面汚染、個人線量の測定等について、スライド、テキストを用いて解説を行い、実習の進め方等の理解促進に繋がるよう意見交換を行った。

2.2.3 実践研修（避難退域時検査・簡易除染）

(1)目的

「避難退域時検査、簡易除染において住民対応に従事する要員が住民の安全と安心に最大限配慮しつつ効率的に活動するために必要な知識と技術」について「いかに教えるか」を学び、指導技術を習得する。

(2)開催実績

	開催日	開催場所	参加人数 (人)
1	平成 30 年 9 月 11 日（火）～ 平成 30 年 9 月 12 日（水）	公益財団法人原子力安全研究協会 （東京都港区）	10
2	平成 30 年 10 月 24 日（水）～ 平成 30 年 10 月 25 日（木）	公益財団法人原子力安全研究協会 （東京都港区）	13
3	平成 30 年 11 月 13 日（火）～ 平成 30 年 11 月 14 日（水）	公益財団法人原子力安全研究協会 （東京都港区）	10
4	平成 30 年 12 月 3 日（月）～ 平成 30 年 12 月 4 日（火）	公益財団法人原子力安全研究協会 （東京都港区）	10
合計			43

(3)プログラム

実践研修(避難退域時検査・簡易除染) プログラム	
【1日目】	
14：00	～ 14：10 開会／オリエンテーション
14：10	～ 14：40 講義：指導概論-本講座の目的と基本的指導技法について-
14：40	～ 14：50 休憩
14：50	～ 15：50 講義：避難退域時検査及び簡易除染に関する講義ポイント等の解説
15：50	～ 16：00 休憩
16：00	～ 16：40 グループワーク：避難退域時検査-会場設置における注意点-
16：40	～ 16：50 休憩
16：50	～ 17：30 実習ロールプレイガイダンス
【2日目】	
9：30	～ 10：50 実習：避難退域時実習 -シミュレーション-
10：50	～ 11：00 休憩
11：00	～ 12：00 実習：避難退域時検査実習 -インストラクションスキルチェック（解説）-
12：00	～ 13：00 休憩
13：00	～ 13：50 実習：原子力災害時の簡易除染 -シミュレーション-
13：50	～ 14：00 休憩
14：00	～ 15：00 実習：原子力災害時の簡易除染 -インストラクションスキルチェック-
15：00	～ 15：10 休憩
15：10	～ 15：30 質疑応答／閉会

(4)内容

講義解説、実習シミュレーション、実習解説については、以下のとおり。

講義解説

スライドとテキストを用いて各講義の趣旨、指導ポイントを正しく理解することを目標に指導者による解説および意見交換を実施した。

実習シミュレーション：避難退域時検査実習

原子力災害時に避難をした住民に対して、的確な避難退域時検査が実施できるよう、機器の取り扱いおよびプローブ（検出器）の移動速度による指針の振れを確認した後、受講生役をグループ分けし、役割を測定検査員1～2名程度、記録員1名程度と決めて、避難退域時検査の模擬実習を行った。

実習は、以下の4つの場面に区分し、その都度、講師役の指導技術について評価を行った。

- ・個人線量計の取り扱い
- ・サーベイメータの使用前点検
- ・プローブの移動速度による指針の揺れの確認
- ・住民に対する体表面汚染検査シミュレーション

実習解説：避難退域時検査実習

実習シミュレーション実施後、指導者による原子力災害時の医療活動に関わる避難退域時検査について、スライド、テキストを用いて解説を行い、実習の進め方等の理解促進に繋がるよう意見交換を行った。

実習シミュレーション：原子力災害時の簡易除染

「避難退域時検査実習」、「原子力災害時の簡易除染」の内容について、参加者が講師役と受講生役に分かれ（交互に交代）実習を行った。実習はいくつかのシーンに区分し、その都度、講師役の指導技術について評価を行った。

実習は、以下の3つの方法で簡易除染の実習を行った。

- ・脱衣による簡易除染

- ・手洗いチェッカー（蛍光ローション）を汚染と見立て、ウェットティッシュ等を用いて、汚染を拡げないように自分自身で拭き取る
- ・2人1組になり、汚染されている者（模擬）本人に拭き取りの指示を出す

実習解説：原子力災害時の簡易除染

実習シミュレーション実施後、原子力災害時に避難する住民を対象に避難退域時検査を行った結果、OIL4 を超える汚染が身体表面に確認された場合の対応について、以下の項目についてスライド、テキストを用いて解説を行い、実習の進め方等の理解促進に繋がるよう意見交換を行った。

- ・簡易除染の考え方
- ・簡易除染に必要な設備等、チームの装備
- ・簡易除染に必要な設備等
- ・簡易除染を行う者の装備
- ・簡易除染の方法
- ・OIL4 以下にならなかった場合の処置
- ・簡易除染等に伴い発生した汚染物等の取り扱い

2.2.4 実践研修（被ばく傷病者等搬送）

(1)目的

「搬送に従事する要員が自身の安全を保ちつつ迅速に被ばく傷病者等を医療機関に搬送し救命に寄与するために必要な知識と技術」について「いかに教えるか」を学び、指導技術を習得する。

(2)開催実績

	開催日	開催場所	参加人数 (人)
1	平成 30 年 11 月 1 日（木）～ 平成 30 年 11 月 2 日（金）	東京消防庁第三消防方面本部 （東京都渋谷区）	14
2	平成 30 年 11 月 19 日（月）～ 平成 30 年 11 月 20 日（火）	東京消防庁第三消防方面本部 （東京都渋谷区）	13
合計			27

(3)プログラム

実践研修(被ばく傷病者等搬送) プログラム

【1日目】

- 14:00 ~ 14:10 開会／オリエンテーション
14:10 ~ 14:40 講義：指導概論－本講座の目的と基本的指導技法について－
14:40 ~ 14:50 休憩
14:50 ~ 16:10 講義：原子力災害時の搬送、原子力災害時における搬送事例に関する講義ポイント等の解説
16:10 ~ 16:20 休憩
16:20 ~ 17:00 実習ロールプレイガイダンス

【2日目】

- 9:30 ~ 10:50 実習：搬送実習－シミュレーション－
10:50 ~ 11:00 休憩
11:00 ~ 12:00 実習：搬送実習
－インストラクションスキルチェック（解説）－
12:00 ~ 12:10 休憩
12:10 ~ 12:30 質疑応答／閉会

(4)内容

講義解説、実習シミュレーション、実習解説については、以下のとおり。

講義解説

スライドとテキストを用いて各講義の趣旨、指導ポイントを正しく理解することを目標に指導者による解説および意見交換を実施した。

実習シミュレーション：搬送実習

「搬送実習」の内容について、参加者が講師役と受講生役に分かれ（交互に交代）実習を行った。実習はいくつかのシーンに区分し、その都度、講師役の指導技術について評価を行った。搬送実習の内容について、シーンを区切り、講師役と受講生役を交替しながらロールプレイを行い、指導者により指導技術の確認（評価）を実施した。

実習解説：搬送実習

実習シミュレーション実施後、原子力災害時の傷病者搬送について一連の流れを解説し、実習の進め方等の理解促進に繋がるよう意見交換を行った。

主な項目は以下のとおり。

- ・ ガイダンス（実習の流れ、資機材の確認）
- ・ 情報収集
- ・ 出動準備（車内養生、服装）
- ・ 初期評価と対応
- ・ 傷病者の車内収容
- ・ 搬送中の車内対応
- ・ 医師への引継ぎ、汚染防止措置の解除

2.2.5 実践研修（医療機関の対応）

(1)目的

「原子力災害時における医療従事者が被ばく傷病者に対して適切に対応できるように必要な知識と技術」について「いかに教えるか」を学び、指導技術を習得する。

(2)開催実績

	開催日	開催場所	参加人数 (人)
1	平成 30 年 10 月 13 日（土）～ 平成 30 年 10 月 14 日（日）	公益財団法人原子力安全研究協会 （東京都港区）	12
2	平成 30 年 11 月 10 日（土）～ 平成 30 年 11 月 11 日（日）	公益財団法人原子力安全研究協会 （東京都港区）	10
3	平成 30 年 12 月 11 日（火）～ 平成 30 年 12 月 12 日（水）	公益財団法人原子力安全研究協会 （東京都港区）	13
合計			35

(3)プログラム

実践研修(医療機関の対応) プログラム

【1日目】

- 14:00 ~ 14:10 開会／オリエンテーション
14:10 ~ 14:40 講義：指導概論—本講座の目的と基本的指導技法について—
14:40 ~ 14:50 休憩
14:50 ~ 16:10 講義：原子力災害時医療に対する医療機関の対応、原子力災害時における対応事例に関する講義ポイント等の解説
16:10 ~ 16:20 休憩
16:20 ~ 17:00 実習ロールプレイガイダンス

【2日目】

- 9:00 ~ 10:40 実習：原子力災害医療実習①—シミュレーション—
10:40 ~ 10:50 休憩
10:50 ~ 11:50 実習：原子力災害医療実習①
—インストラクションスキルチェック（解説）—
11:50 ~ 12:50 休憩
12:50 ~ 14:20 実習：原子力災害医療実習②—シミュレーション—
14:20 ~ 14:30 休憩
14:30 ~ 15:30 実習：原子力災害医療実習②
—インストラクションスキルチェック（解説）—
15:30 ~ 15:40 休憩
15:40 ~ 16:00 質疑応答／閉会

(4)内容

講義解説、実習シミュレーション、実習解説については、以下のとおり。

講義解説

スライドとテキストを用いて各講義の趣旨、指導ポイントを正しく理解することを目標に指導者による解説および意見交換を実施した。

実習シミュレーション：原子力災害時医療対応実習①②

参加者は講師役と受講生役に分かれ（交互に交代）、原子力災害時医療対応の実習を行った。実習はいくつかのシーンに区分し、その都度、講師役の指導技術について評価を行った。

実習解説：原子力災害時医療対応実習①②

実習シミュレーション実施後、原子力災害時に医療機関での汚染を伴う傷病者への対

応について解説し、実習の進め方等の理解促進に繋がるよう意見交換を行った。

主な項目は以下のとおり。

- ・ ガイダンス（医療チームでの役割分担の確認）
- ・ 情報収集
- ・ 汚染拡大防護措置（養生）
- ・ 装備の着装
- ・ 処置室での医療スタッフの配置、役割および資機材等の確認
- ・ 医療対応
- ・ 対応後の医療スタッフの退出

2.2.6 実践研修（安定ヨウ素剤等）

(1)目的

「安定ヨウ素剤の配布に関わる要員が適切な配布体制の構築や正確な安定ヨウ素剤に関する情報の提供を通して住民の安全と安心を得るために必要な知識と技術」について「いかに教えるか」を学び、指導技術を習得する。

(2)開催実績

	開催日	開催場所	参加人数 (人)
1	平成 30 年 11 月 30 日（金）	公益財団法人原子力安全研究協会 （東京都港区）	14
2	平成 30 年 12 月 18 日（火）	公益財団法人原子力安全研究協会 （東京都港区）	11
合計			25

(3)プログラム

実践研修(安定ヨウ素剤等) プログラム

9:30 ~ 09:40	開会／オリエンテーション
9:40 ~ 10:10	講義：指導概論－本講座の目的と基本的指導技法について
10:10 ~ 10:20	休憩
10:20 ~ 11:30	講義：安定ヨウ素剤の服用と効果、安定ヨウ素剤の配布方法とその対応に関する講義ポイント等の解説
11:30 ~ 12:30	休憩
12:30 ~ 13:10	グループワーク：住民想定Q&A
13:10 ~ 13:20	休憩
13:20 ~ 14:10	演習：安定ヨウ素剤配布（事前配布と緊急配布）
14:10 ~ 14:20	休憩
14:20 ~ 14:50	実習ロールプレイガイダンス
14:50 ~ 16:00	実習：安定ヨウ素剤緊急配布－シミュレーション－
16:00 ~ 16:10	休憩
16:10 ~ 16:50	実習：安定ヨウ素剤緊急配布 －インストラクションスキルチェック（解説）－
16:50 ~ 17:00	休憩
17:00 ~ 17:20	質疑応答／閉会

(4)内容

講義解説、実習シミュレーション、実習解説については、以下のとおり。

講義解説

スライドとテキストを用いて各講義の趣旨、指導ポイントを正しく理解することを目標に指導者による解説および意見交換を実施した。

グループワーク：住民想定Q&A

安定ヨウ素剤の事前配布や緊急配布時に関する住民からの質問を想定し、その質問に対する回答をグループで討議し、発表した。

演習：安定ヨウ素剤配布（事前配布と緊急配布）

①事前配布

事前配布説明会を模擬した会場をホワイトボードに作成し、動線、人員配置等の確認を行った。

②緊急配布のケーススタディ

バス車内で安定ヨウ素剤の緊急配布を行うケースを想定し、受講者に住民役と要員

役に別れてもらい演習を実施した。

実習シミュレーション：安定ヨウ素剤緊急配布

ドライブスルー方式による安定ヨウ素剤の緊急配布の実習内容について、受講者が講師役と受講生（住民役と要員役）役を交替しながらその都度、講師役の指導技術について評価を行った。

実習解説：安定ヨウ素剤緊急配布

実習シミュレーション実施後、原子力災害時におけるドライブスルー方式による安定ヨウ素剤の緊急配布の実習内容について解説し、実習の進め方等の理解促進に繋がるよう意見交換を行った。

第3章 eラーニングの実施

3.1 コンテンツの整備

昨年度から本格運用を始めている「原子力災害医療に関わる基礎研修eラーニング」について、今年度は原子力規制庁と協議調整を図り、以下のとおりコンテンツの拡充を図った。

3.1.1 コンテンツの充実化

原子力災害時の医療に関わる研修の事前学習環境の充実化を図るべく、以下の事項について取り組んだ。

○試験問題の追加検討

受講者の素養の適切な判定のため、試験問題について修正、追加等がないかどうか内部の専門家と検討した。

○動画の追加

以下の実践研修テキストに記載のある実習部分について動画の作成を行った。

- ・避難退域時検査・簡易除染
- ・被ばく傷病者等搬送
- ・医療機関の対応

3.2 関係機関への周知

上記のとおり、コンテンツを整備し、事前学習環境の充実化を図ることができたことから、今年度は原子力災害医療・総合支援センターが主催の原子力災害時医療連携推進協議会において登録利用者状況を関係者に伝えるとともに、本eラーニングの積極的な活用について理解・促進を図った。

第4章 講師ネットワークの拡充

4.1 概要

講師養成講座の受講を終えた講師候補の間で情報交換、共有が円滑に行えるネットワーク情報の更新を行った。また、実効性のあるネットワークの構築が行えるよう講師候補が集う講師交流会を1回開催した。

なお、ここでのネットワークとは、講師養成講座を修了した者の所属や連絡先についての名簿を作成・更新することにより、原子炉施設等立地道府県およびその他の重点区域内の府県（以下、立地隣接道府県）において自治体や原子力災害拠点病院等より要望があった場合に適切な講師の紹介を行える体制をいう。

4.2 受講修了者アンケート調査の実施

講師候補のネットワークを拡充するため、昨年度までの講師養成講座の受講を終えた講師候補の現在の連絡先等についてアンケート調査を実施し、連絡先の更新を行った。あわせて、受講後に原子力災害時の医療に関する研修の講師等の経験について調査した。

4.3 受講者の状況把握調査

今年度の講師養成講座の受講者を対象として、立地隣接道府県において、自治体あるいは原子力災害拠点病院等が行う研修の講師受諾意思の確認、講師ネットワークへの登録等についてアンケート調査を実施した。

4.4 講師交流会

講師養成講座実施後にアンケート等を行い把握した改善課題の共有、今後の講師養成講座の在り方等について、講師養成講座修了後に各地域で講師等を経験した者や熱意を持って講師養成講座に取り組みされた修了者が指導者と交えて意見交換を行う講師交流会を1回開催した。また、講師交流会終了後、引き続き、関係者間による情報の共有、顔の見える関係の構築の一助となるよう情報交換会を実施した。

○講師交流会

日時：平成31年2月27日（水）16：00～17：30

場所：TKP新橋汐留ビジネスセンター ホール201

主な議題：（1）研修の体系化について

（2）今年度実施した講師養成講座について（アンケート結果等の概要）

（3）グループディスカッション

○情報交換会

日時：平成31年2月27日（水）18：00～19：30

場所：原安協本館地下会議室

第5章 おわりに

地域の原子力災害時医療活動の実効性を確保することを目的に、本事業では、①講師養成講座受講者の選定および講師養成講座の実施（第2章）、②eラーニングの実施（第3章）、③講師ネットワークの拡充（第4章）を以下のとおり実施した。

①『講師養成講座受講者の選定および講師養成講座の実施』については、13地域24道府県の原子力災害医療担当窓口案内し、受講者の推薦を依頼した。回答のあった者を対象に基礎研修および4種の実践研修を計15回開催した結果、のべ181名の受講があった。受講者へのアンケート調査では、「前回の参加の時よりも、内容がレベルアップしていて、自分自身も力がついてきたと思った。充実した内容であり、今回参加できなかった後輩たちにも情報共有したい」という意見もあり、本講座の評価が高いことが伺えた。また、「シミュレーションは大変役に立った。自分自身の問題点もわかり、他の受講者を見て改善点も見えてきた。実際の講義について、専門ではない受講者に説明することが難しいことを再認識し、スライドなど工夫が必要と思った」という意見もあり、自身が講師になるという意欲を持ち、改善を図ろうとする者もいることがわかった。

昨年度の講師養成講座の指導者からは「受講者のレベル（個々の知識）の差が大きい」、「前提としての講師の素養に疑問があるのではないか」など、受講者が原子力災害時の医療に関わる研修の講師となるための基礎的な知識のレベルが一定でないことが指摘されたことから、受講者の選定条件や講師養成講座カリキュラムおよび教材等について改善課題を把握し見直しを行い実施したが、「インストラクターとして役割を行うには自分自身の経験不足、知識不足を痛感した。知識のみならず、経験を増やせるような場を是非提供して欲しいと感じた。」など、まだ自身の経験、知識不足を認識する受講者もいたことから継続的に改善課題の把握や内容の見直しが必要である。

②『eラーニングの実施』については、本格運用から2年目となったが、今年度は実践研修の実習部分について動画を作成し、事前学習の参考となるようコンテンツの充実化を図ったが、次年度以降も継続的にコンテンツの充実化を図ることが重要と考える。

③『講師ネットワークの拡充』については、昨年度までの講師養成講座修了者に対して現在の連絡先等についてアンケート調査を行い、連絡先の更新および本講座受講後の講師の経験等について確認した。また、今年度の受講者に対しても講師を受諾する意思や講師ネットワークへの登録等についてアンケート調査を行った。さらには、講師養成講座の修了者を集め、講師交流会を開催し、実効性のあるネットワーク構築に努めた。

參考資料

1. 推薦者記入用紙

原子力災害時の医療に関わる研修講師養成講座
推薦者記入用紙

公益財団法人原子力安全研究協会放射線災害医療研究所 ●●
〒105-0004 東京都港区新橋5丁目18番7号
E-mail: ●●@nsra.or.jp FAX:03-5470-1978

締切: 平成●●年●●月●日 () ●●:●●までにご連絡をお願いいたします

コース名: ①基礎研修

推薦ご担当者	氏名 (ふりがな):		
	所属機関:	部署:	役職:
	TEL:	FAX:	
	Email:		

以下に推薦者の情報をご記入下さい

氏名:	ふりがな:
所属機関:	
部署:	役職・職種:
勤務先住所: (〒 -)	(最寄駅)
TEL:	FAX:
Email:	

下記日程の右欄に【 第1希望は○、第2希望は△、いずれの日でも良い場合は複数の日程に○ 】をご記入下さい

日程①:	1日コース	日程②:	1日コース	日程③:	1日コース	日程④:	1日コース
8/7 (火)		9/1 (土)		9/29 (土)		10/22 (月)	
~8 (水)	2日コース	~2 (日)	2日コース	~30 (日)	2日コース	~23 (火)	2日コース

受講者としての要件 (原子力災害医療対応研修 (同等の研修を含む) の受講歴など)

その他 (JPTECインストラクターコースなどの受講歴)

※ご推薦を受けられた皆様の本コースに関する受講前の習熟度を確認したく、以下の設問にご回答をお願いいたします。

- 過去5年間で放射線の基礎知識や人体への影響と放射線防護に関する講義を受講した経験がありますか。
有 (回数 回) 無
- 過去5年間で放射線測定器を使った実習を受講した経験がありますか。
有 (回数 回) 無
- 原子力災害対策指針について
関係者に説明ができる 理解できている 余り知らない 全く知らない
- 放射線の基礎知識について (放射線の種類、被ばくと汚染、確定的影響と確率的影響)
関係者に説明ができる 理解できている 余り知らない 全く知らない
- 放射線測定器の使用方法について
関係者に説明ができる 理解できている 余り知らない 全く知らない

◎上記の個人情報は、原子力施設等防災対策等委託費 (原子力災害医療に関する研修の実効性向上) 事業以外には、一切使用致しません。

原子力災害時の医療に関わる研修講師養成講座 推薦者記入用紙

公益財団法人原子力安全研究協会放射線災害医療研究所 ●●
〒105-0004 東京都港区新橋5丁目18番7号
E-mail: ●●@nsra.or.jp FAX: 03-5470-1978

締切：平成●●年●●月●●日（ ）●●：●●までにご連絡をお願いいたします

コース名：③実践研修(被ばく傷病者等搬送)

推薦ご担当者	氏名 (ふりがな)：		
	所属機関：	部署：	役職：
	TEL：	FAX：	
	Email：		

以下に推薦者の情報をご記入下さい

氏名：	ふりがな：
所属機関：	
部署：	役職・職種：
勤務先住所：(〒 -)	(最寄駅)
TEL：	FAX：
Email：	
下記日程の右欄に【 第1希望は○、第2希望は△、いずれの日でも良い場合は複数の日程に○ 】をご記入下さい	
日程①：11/1 (木) ~2 (金)	日程②：11/19 (月) ~20 (火)
受講者としての要件 (原子力災害医療対応研修 (同等の研修を含む) の受講歴など)	
その他 (JPTECインストラクターコースなどの受講歴)	

※ご推薦を受けられた皆様の本コースに関する受講前の習熟度を確認したく、以下の設問にご回答をお願いいたします。

1. 過去5年間で被ばく傷病者等の搬送に関する講義を受講した経験がありますか。	<input type="checkbox"/> 有 (回数 回) <input type="checkbox"/> 無
2. 過去5年間で救急車の養生や隊員の汚染拡大防護措置 (服装等の着脱) に関する実習を受講した経験がありますか。	<input type="checkbox"/> 有 (回数 回) <input type="checkbox"/> 無
3. 原子力災害時における傷病者に関する情報収集について	<input type="checkbox"/> 関係者に説明ができる <input type="checkbox"/> 理解できている <input type="checkbox"/> 余り知らない <input type="checkbox"/> 全く知らない
4. 汚染拡大防護措置 (救急車の養生、服装等の着脱)	<input type="checkbox"/> 関係者に説明ができる <input type="checkbox"/> 理解できている <input type="checkbox"/> 余り知らない <input type="checkbox"/> 全く知らない
5. 被ばく傷病者等搬送中の医療対応について	<input type="checkbox"/> 関係者に説明ができる <input type="checkbox"/> 理解できている <input type="checkbox"/> 余り知らない <input type="checkbox"/> 全く知らない

◎上記の個人情報は、原子力施設等防災対策等委託費 (原子力災害医療に関する研修の実効性向上) 事業以外には、一切使用致しません。

原子力災害時の医療に関わる研修講師養成講座 推薦者記入用紙

公益財団法人原子力安全研究協会放射線災害医療研究所 ●●
〒105-0004 東京都港区新橋5丁目18番7号
E-mail: ●●@nsra.or.jp FAX: 03-5470-1978

締切: 平成●●年●●月●●日 () ●●:●●までにご連絡をお願いいたします

コース名: ④実践研修(医療機関の対応送)

推薦ご担当者	氏名 (ふりがな):		
	所属機関:	部署:	役職:
	TEL:	FAX:	
	Email:		

以下に推薦者の情報をご記入下さい

氏名:	ふりがな:	
所属機関:		
部署:	役職・職種:	
勤務先住所: (〒 -)	(最寄駅)	
TEL:	FAX:	
Email:		
下記日程の右欄に【 第1希望は○、第2希望は△、いずれの日でも良い場合は複数の日程に○ 】をご記入下さい		
日程①: 10/13 (土) ~14 (日)	日程②: 11/10 (土) ~11 (日)	日程③: 12/11 (火) ~12 (水)
受講者としての要件 (原子力災害医療対応研修 (同等の研修を含む) の受講歴など)		
その他 (JPTECインストラクターコースなどの受講歴)		

※ご推薦を受けられた皆様の本コースに関する受講前の習熟度を確認したく、以下の設問にご回答をお願いいたします。

1. 過去5年間で被ばく傷病者等の受け入れに関する講義を受講した経験がありますか。
有 (回数 回) 無
2. 過去5年間で被ばく傷病者等に対する医療対応に関する実習を受講した経験がありますか。
有 (回数 回) 無
3. 受け入れ準備 (防護衣装着、処置室等養生) について
関係者に説明ができる 理解できている 余り知らない 全く知らない
4. 被ばく傷病者等に対する医療対応の手順について
関係者に説明ができる 理解できている 余り知らない 全く知らない
5. 医療対応時の役割 (職種別) について
関係者に説明ができる 理解できている 余り知らない 全く知らない

◎上記の個人情報は、原子力施設等防災対策等委託費 (原子力災害医療に関する研修の実効性向上) 事業以外には、一切使用致しません。

原子力災害時の医療に関わる研修講師養成講座 推薦者記入用紙

公益財団法人原子力安全研究協会放射線災害医療研究所 ●●
〒105-0004 東京都港区新橋5丁目18番7号
E-mail: ●●@nsra.or.jp FAX: 03-5470-1978

締切: 平成●●年●●月●●日 () ●●:●●までにご連絡をお願いいたします

コース名: ⑤実践研修(安定ヨウ素剤等)			
推薦ご担当者	氏名 (ふりがな):		
	所属機関:	部署:	役職:
	TEL:	FAX:	
	Email:		
以下に推薦者の情報をご記入下さい			
氏名:		ふりがな:	
所属機関:			
部署:		役職・職種:	
勤務先住所: (〒 -)			(最寄駅)
TEL:		FAX:	
Email:			
下記日程の右欄に【 第1希望は○、第2希望は△、いずれの日でも良い場合は複数の日程に○ 】をご記入下さい			
日程①: 11/30 (金)		日程②: 12/18 (火)	
受講者としての要件 (原子力災害医療対応研修 (同等の研修を含む) の受講歴など)			
その他 (JPTECインストラクターコースなどの受講歴)			
※ご推薦を受けられた皆様の本コースに関する受講前の習熟度を確認したく、以下の設問にご回答をお願いいたします。			
1. 過去5年間で安定ヨウ素剤の取扱いに関する講義を受講した経験がありますか。 <input type="checkbox"/> 有 (回数 回) <input type="checkbox"/> 無			
2. 過去5年間で安定ヨウ素剤の事前配布や緊急配布の実習を受講した経験がありますか。 <input type="checkbox"/> 有 (回数 回) <input type="checkbox"/> 無			
3. 安定ヨウ素剤の服用と効果について <input type="checkbox"/> 関係者に説明ができる <input type="checkbox"/> 理解できている <input type="checkbox"/> 余り知らない <input type="checkbox"/> 全く知らない			
4. 安定ヨウ素剤の配布方法について <input type="checkbox"/> 関係者に説明ができる <input type="checkbox"/> 理解できている <input type="checkbox"/> 余り知らない <input type="checkbox"/> 全く知らない			
5. 配布時に対応する要員の役割について <input type="checkbox"/> 関係者に説明ができる <input type="checkbox"/> 理解できている <input type="checkbox"/> 余り知らない <input type="checkbox"/> 全く知らない			

◎上記の個人情報は、原子力施設等防災対策等委託費 (原子力災害医療に関する研修の実効性向上) 事業以外には、一切使用致しません。

2. 講座実施状況（基礎研修）



講義（指導概論
-本講座の目的と基本的指導技法について-）



講義（イントロダクション）



実習ロールプレイガイド



実習ロールプレイガイド



実習（医療活動に必要な放射線測定）



実習（医療活動に必要な放射線測定）

3. アンケート結果（基礎研修）

平成30年度「原子力災害時の医療に関わる研修講師養成講座」基礎研修 受講者アンケート集計

参加人数 51名 アンケート回収人数 50名

1	所属	病院	保健所	医師会	放射線技師会	消防	警察	自衛隊	海上保安庁	国	道府県	市町村	大学	その他	無記入	合計
		34	1	0	4	6	1	0	0	0	2	1	1	0	0	0

2	職種	医師	看護師/保健師	薬剤師	診療放射線技師	臨床検査技師	海上保安官	自衛官	警察官	消防士職	救急救命士	事務職員	その他	無記入	合計
		9	8	1	23	0	0	1	0	1	4	3	1	0	0

3	年齢	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無記入	合計
		0	4	15	21	10	0	0	0

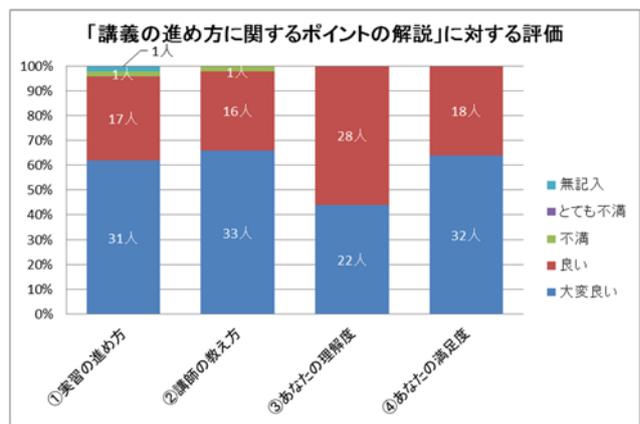
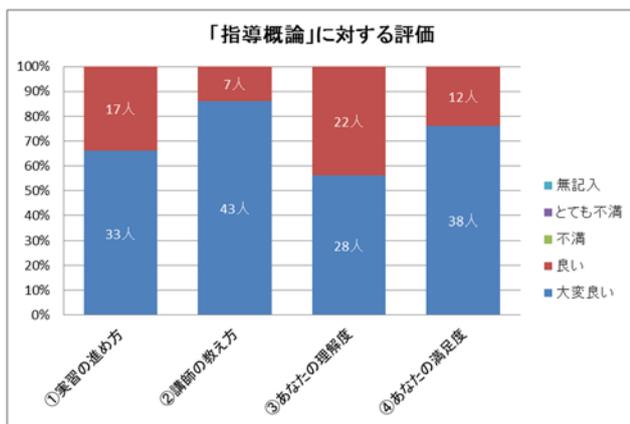
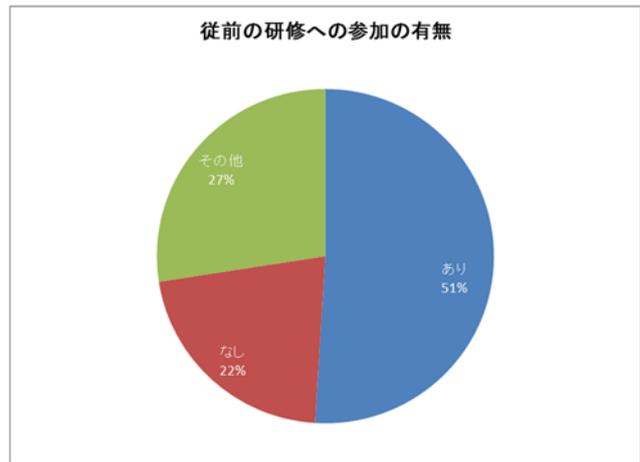
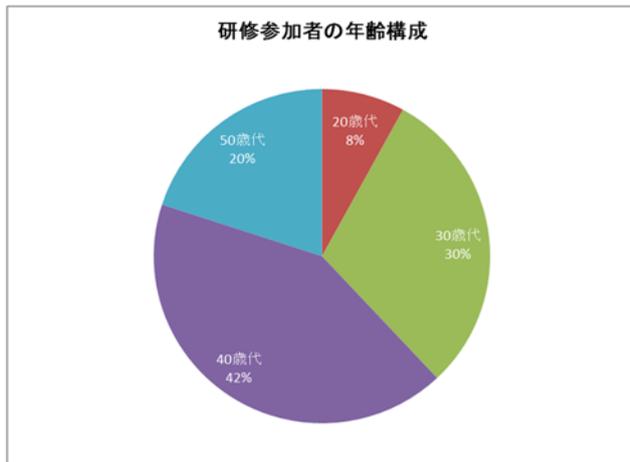
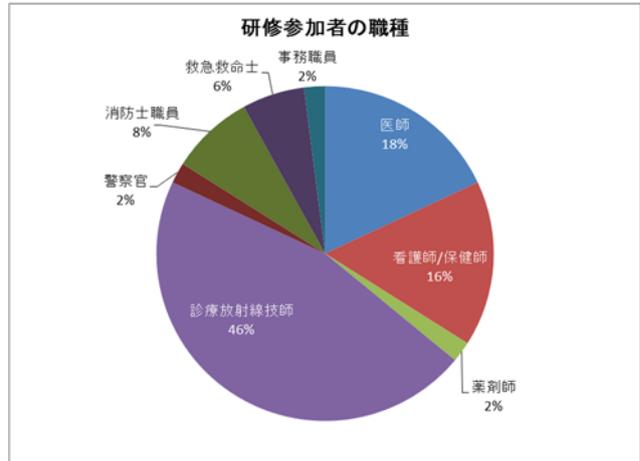
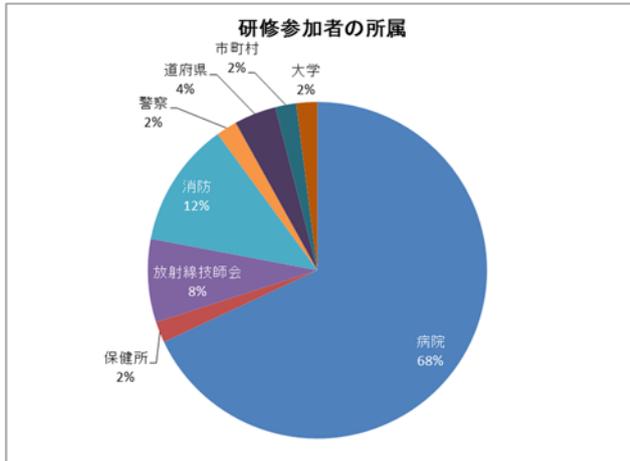
4	参加有無	あり	なし	その他	無記入	合計
		26	11	14	0	51

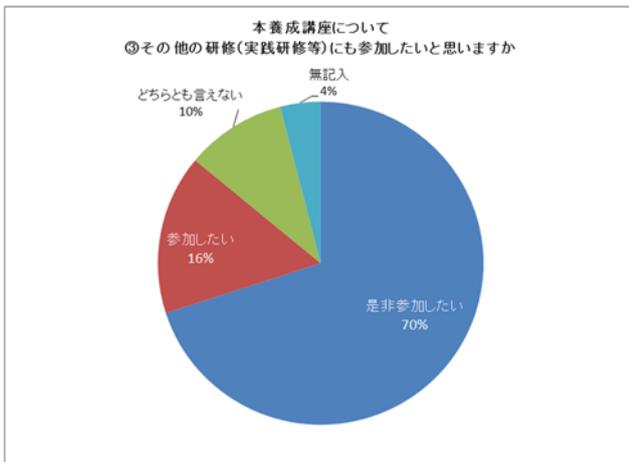
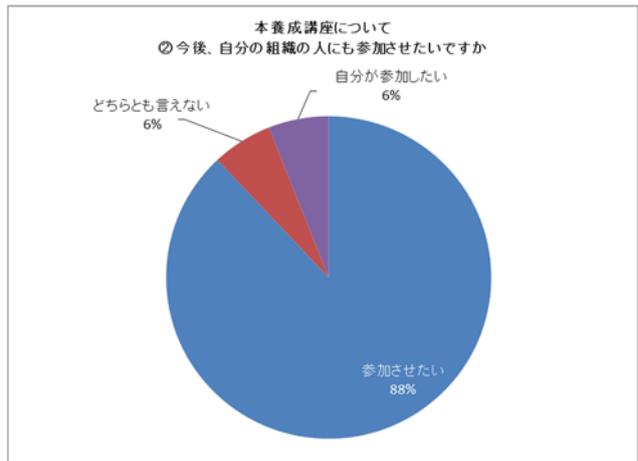
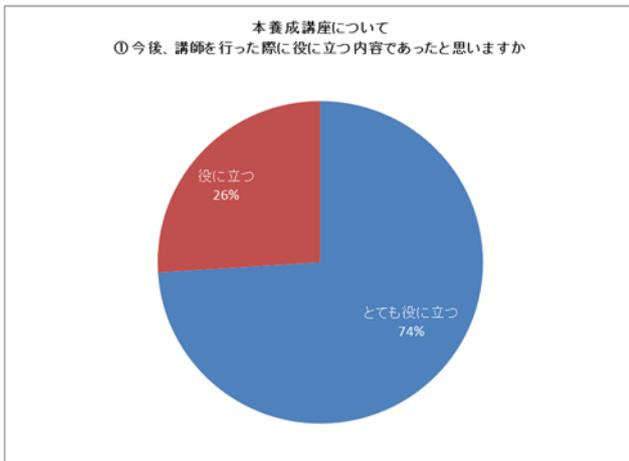
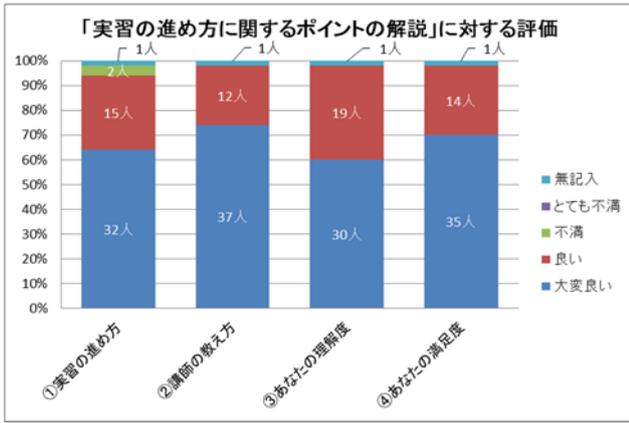
6	講義・実習評価	①実習(実習、デイスカッション、ロールプレイ)の進め方					②講師の教え方					③あなたの理解度					④あなたの満足度								
		大変良い	良い	不満	とても不満	無記入	合計	大変良い	良い	不満	とても不満	無記入	合計	大変良い	良い	不満	とても不満	無記入	合計						
	指導概論	33	17	0	0	0	50	43	7	0	0	0	50	28	22	0	0	0	50	38	12	0	0	0	50
	講義の進め方に関するポイントの解説	31	17	1	0	1	50	33	16	1	0	0	50	22	28	0	0	0	50	32	18	0	0	0	50
	実習の進め方に関するポイントの解説	32	15	2	0	1	50	37	12	0	0	1	50	30	19	0	0	1	50	35	14	0	0	1	50

7	本養成講座について	①今後、講師を行った際に役に立つ内容であったと思いますか					②今後、自分の組織の人にも参加させたいですか					③その他の研修(実践研修等)にも参加したいと思いませんか							
		とても役に立つ	役に立つ	余り役に立たない	全く役に立たない	無記入	合計	参加させたい	どちらとも言えない	参加させたくない	無記入	合計	是非参加したい	参加したい	どちらとも言えない	参加したくない	無記入	合計	
		37	13	0	0	0	50	44	3	0	3	0	50	35	8	5	0	2	50

グラフ集計

参加人数 51名 アンケート回収人数 50名 (回収率 98.0%)





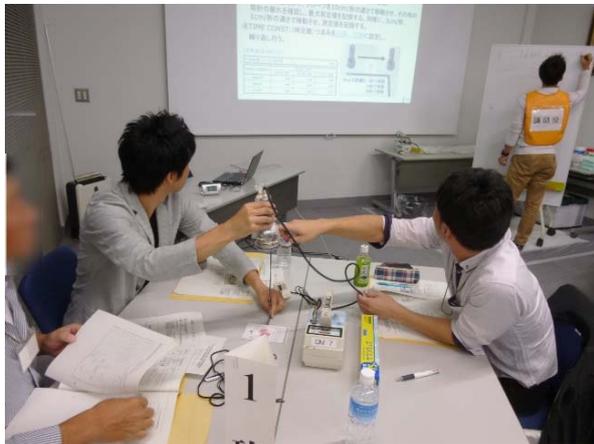
4. 講座実施状況（実践研修 避難退域時検査・簡易除染）



講義（簡易除染）



グループワーク（検査場所の配置）



実習（検査のための予備実習）



実習シミュレーション（指定箇所検査）



実習（簡易除染）



実習（簡易除染）

5. アンケート結果（実践研修 避難退域時検査・簡易除染）

平成30年度「原子力災害時の医療に関わる研修講師養成講座」実践研修（避難退域時検査・簡易除染）受講者アンケート集計

参加人数 43名 7アンケート回収人数 43名

所属	病院	保健所	医師会	放射線技師会	消防	警察	自衛隊	海上保安庁	国	道府県	市町村	大学	その他	無記入	合計
	1	27	2	0	4	1	0	0	0	0	6	0	3	0	0

職種	医師	看護師/保健師	薬剤師	診療放射線技師	臨床検査技師	海上保安官	自衛官	警察官	消防士	救急救命士	事務職員	その他	無記入	合計
	2	8	4	1	25	0	0	0	0	0	1	3	1	0

年齢	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無記入	合計
	3	0	0	18	15	10	0	0

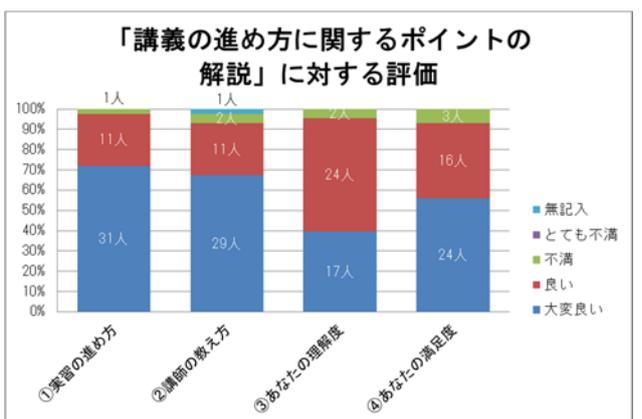
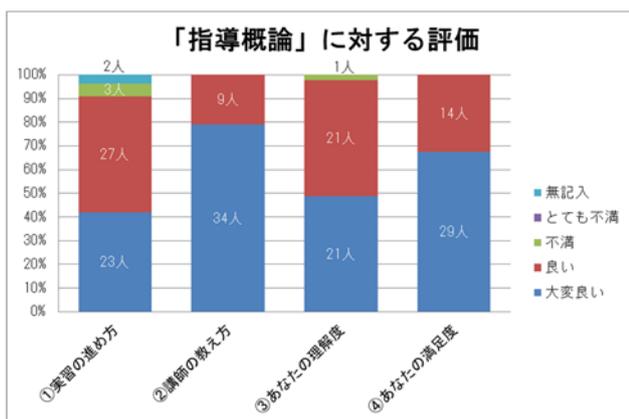
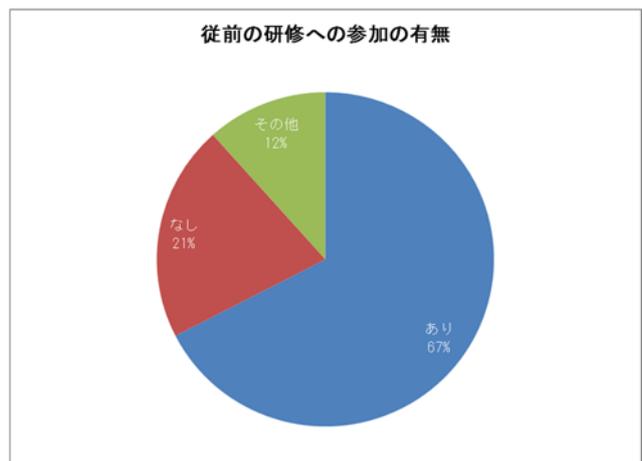
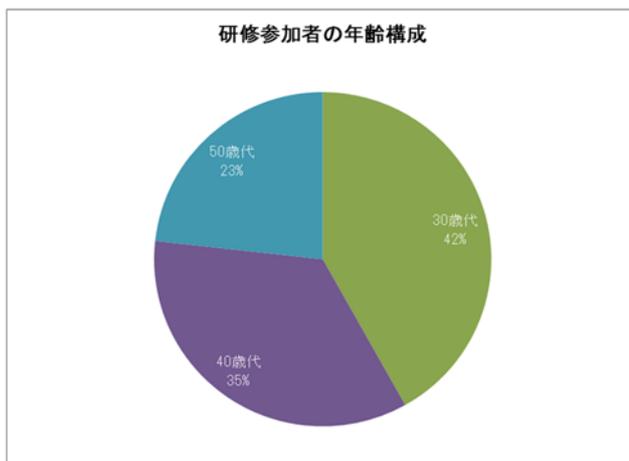
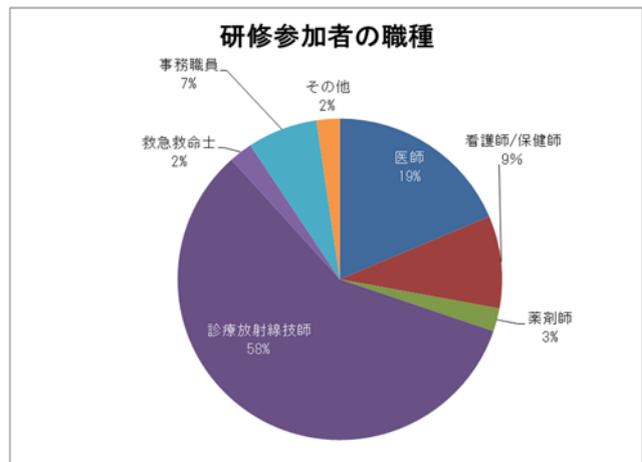
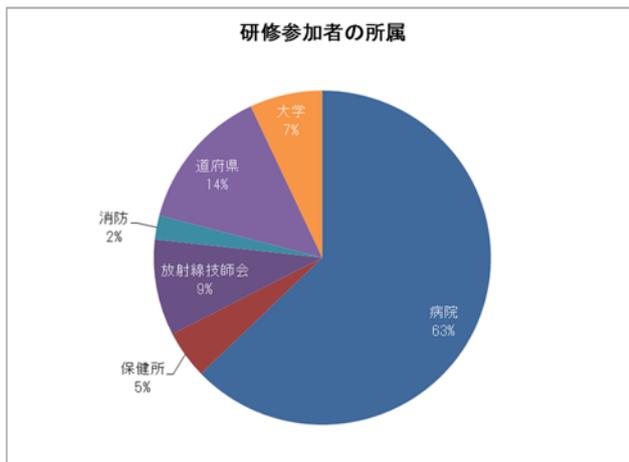
参加有無	あり	なし	その他	無記入	合計
4	29	9	5	0	43

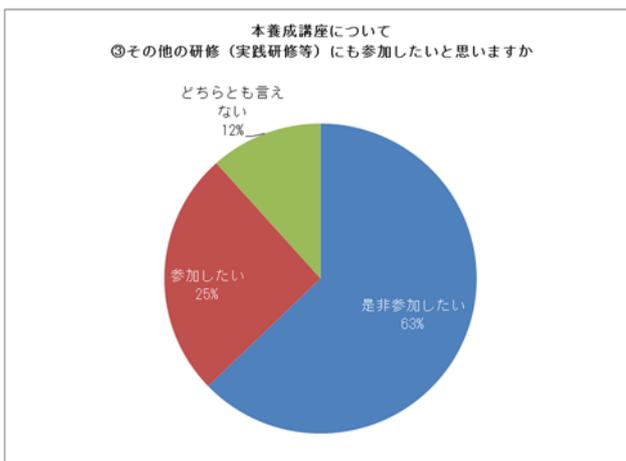
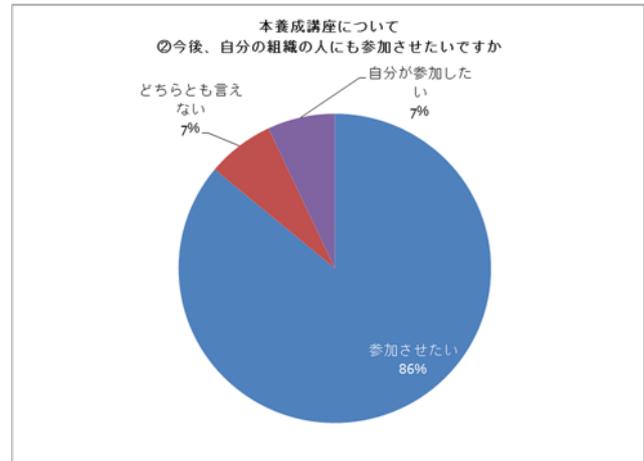
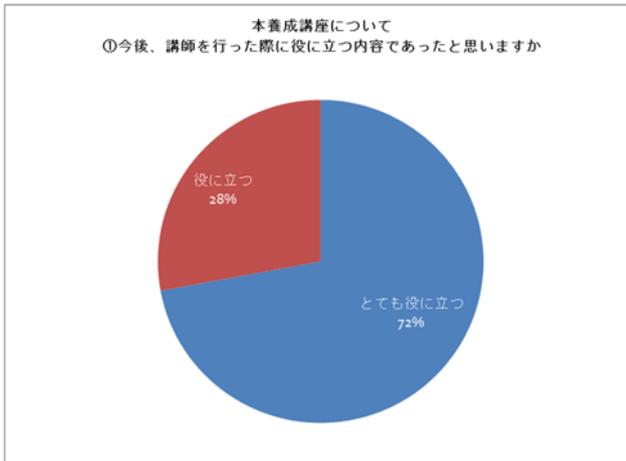
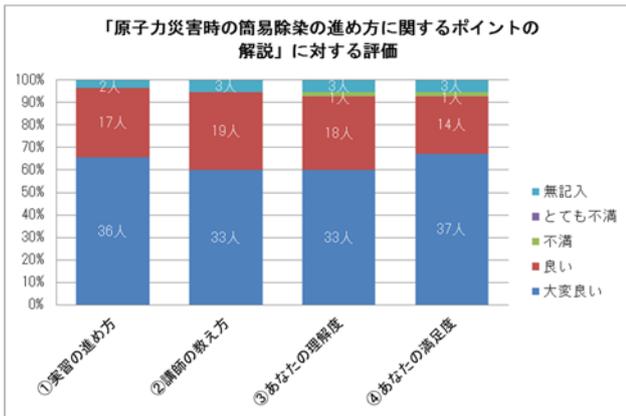
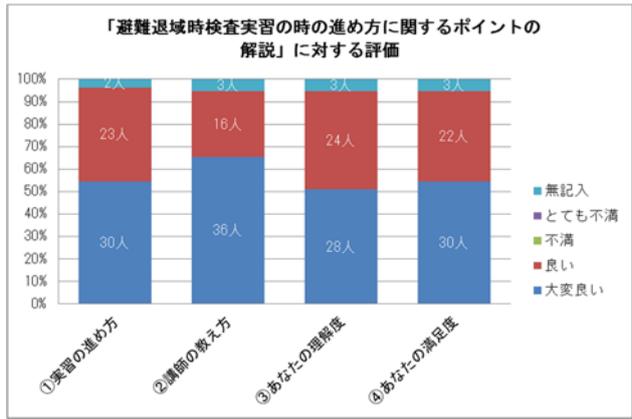
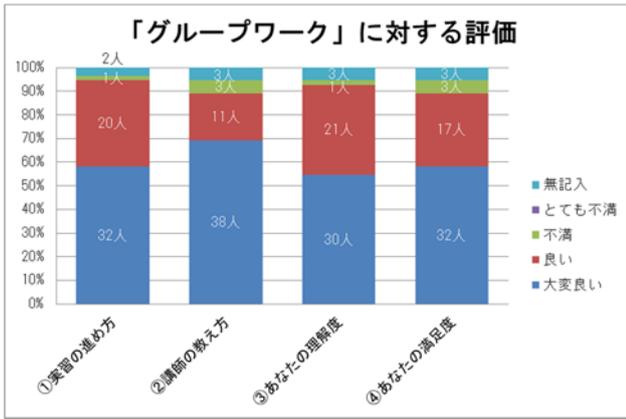
講義・実習評価	①実習（実習、デイスカッション、ロールプレイ）の進め方					②講師の教え方					③あなたの理解度					④あなたの満足度								
	大変良い	良い	不満	とても不満	無記入	合計	大変良い	良い	不満	とても不満	無記入	合計	大変良い	良い	不満	とても不満	無記入	合計	大変良い	良い	不満	とても不満	無記入	合計
5	28	14	1	0	0	43	34	9	0	0	0	43	21	21	1	0	0	43	29	14	0	0	0	43
講義の進め方に関するポイントの解説	31	11	1	0	0	43	29	11	2	0	1	43	17	24	2	0	0	43	24	16	3	0	0	43
グループワーク	18	17	8	0	0	43	25	17	1	0	0	43	16	25	2	0	0	43	22	17	4	0	0	43
避難退域時検査実習の時の進め方に関するポイントの解説	22	16	5	0	0	43	25	18	0	0	0	43	19	23	1	0	0	43	26	15	2	0	0	43
原子力災害時の簡易除染の進め方に関するポイントの解説	23	20	0	0	0	43	27	16	0	0	0	43	23	19	1	0	0	43	26	16	1	0	0	43

本養成講座について	①今後、講師を行った際に役に立つ内容であったと思いますか					②今後、自分の組織の人にも参加させたいですか					③その他の研修（実践研修等）にも参加したいと思いませんか							
	とても役に立つ	役に立つ	余り役に立たない	全く役に立たない	無記入	合計	参加させたい	どちらとも言えない	参加させたくない	自分が参加したくない	無記入	合計	是非参加したい	参加したい	どちらとも言えない	参加したくない	無記入	合計
7	31	12	0	0	0	43	37	3	0	3	0	43	27	11	5	0	0	43

グラフ集計

参加人数 43 名 アンケート回収人数 43 名（回収率 100%）





6. 講座実施状況（実践研修 被ばく傷病者等搬送）



講義（原子力災害時の搬送）



実習（車内養生）



実習（ストレッチャー養生）



実習（防護衣着装）



実習（ラッピング）



実習（防護衣脱装）

7. アンケート結果（実践研修 被ばく傷病者等搬送）

平成30年度「原子力災害時の医療に関わる研修講師養成講座」実践研修（被ばく傷病者等搬送）受講者アンケート集計

参加人数 27名 アンケート回収人数 27名

所属	病院	保健所	医師会	放射線技師会	消防	警察	自衛隊	海上保安庁	国	道府県	市町村	大学	その他	無記入	合計
	1	11	0	0	1	12	0	0	0	0	0	0	3	0	0

職種	医師	看護師/保健師	薬剤師	診療放射線技師	臨床検査技師	海上保安官	自衛官	警察官	消防士	救急救命士	事務職員	その他	無記入	合計
	2	7	1	0	7	0	0	0	0	5	7	0	0	0

年齢	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無記入	合計
	3	0	3	8	10	5	0	1

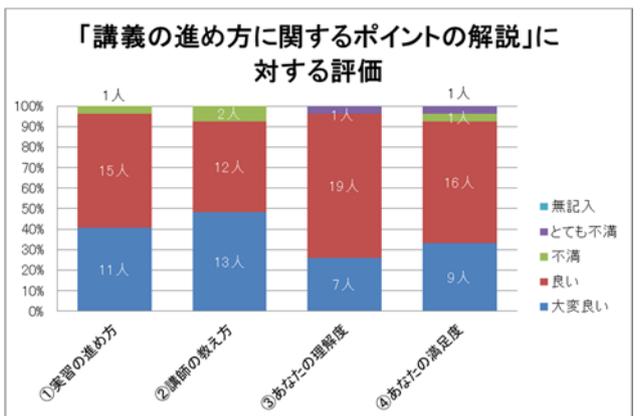
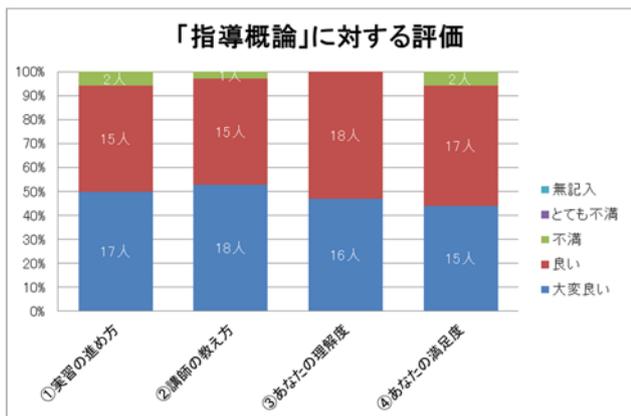
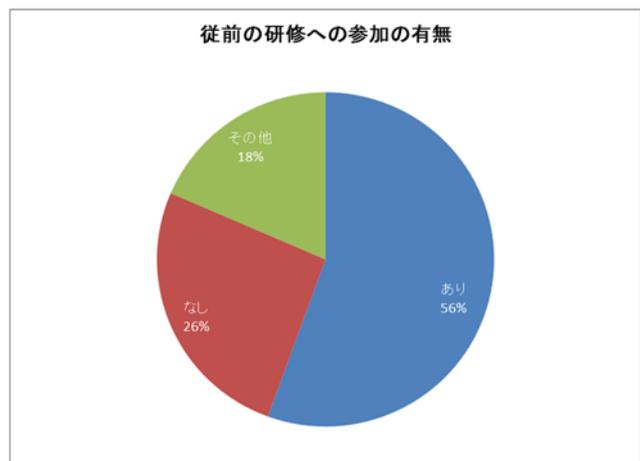
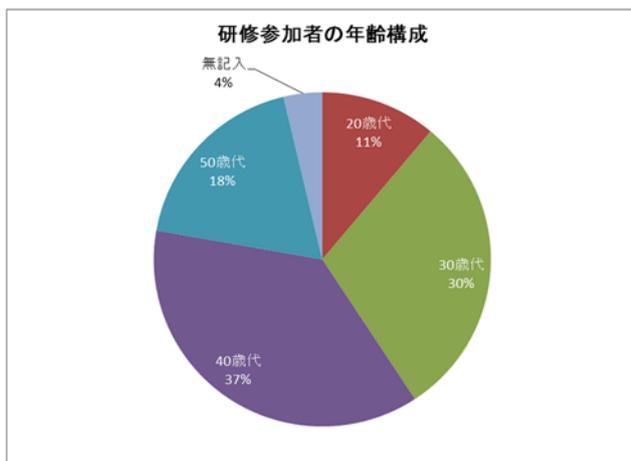
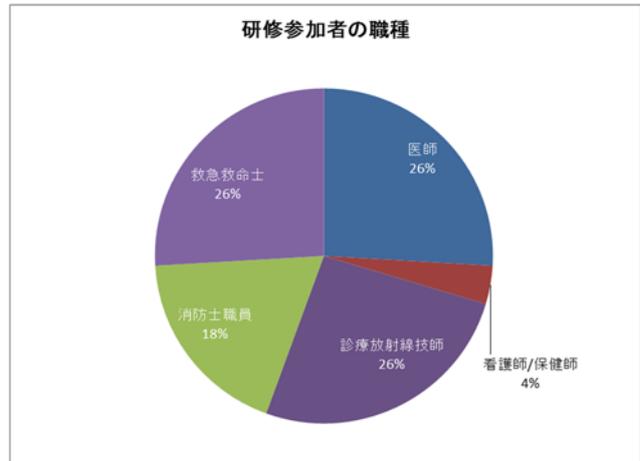
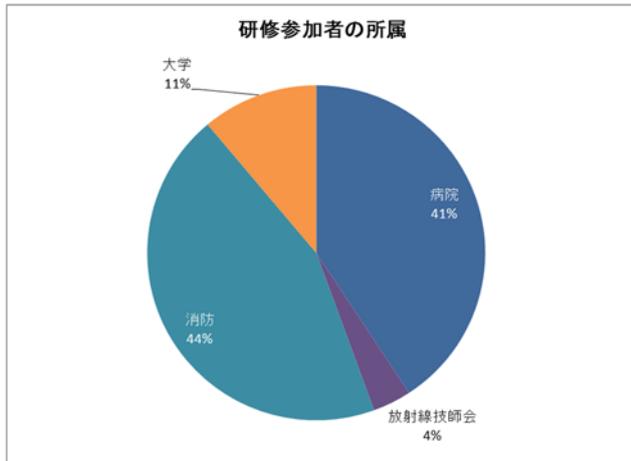
参加有無	あり	なし	その他	無記入	合計
4	15	7	5	0	27

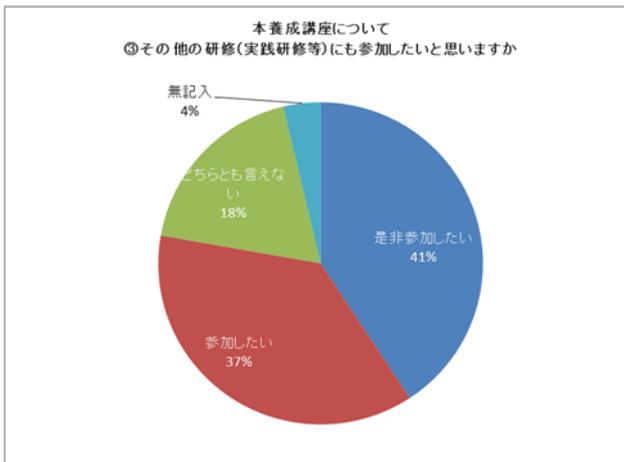
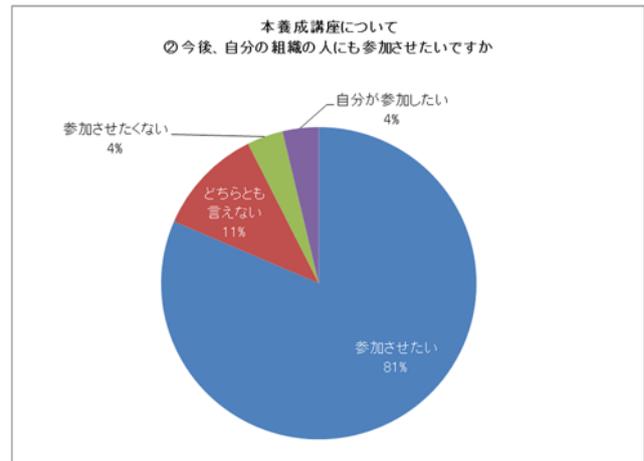
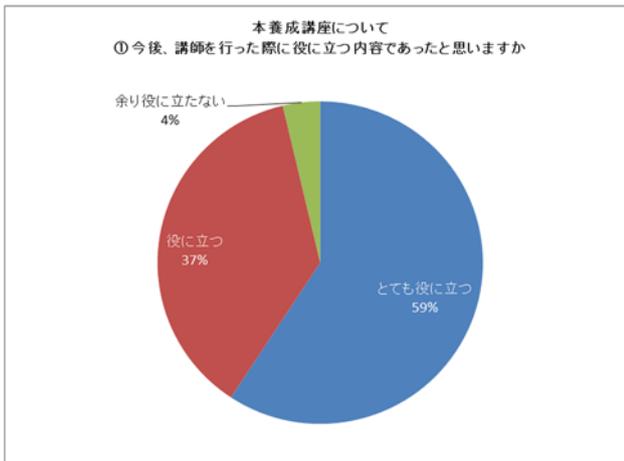
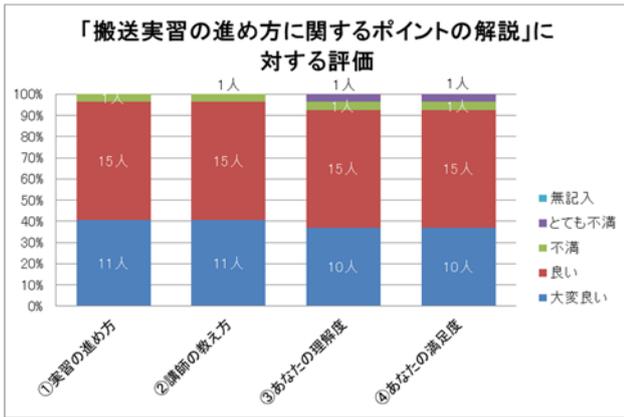
講義・実習評価	①実習(実習、ディスカッション、ロールプレイ)の進め方					②講師の教え方					③あなたの理解度					④あなたの満足度				
	大変良い	良い	不満	とても不満	無記入	合計	大変良い	良い	不満	とても不満	無記入	合計	大変良い	良い	不満	とても不満	無記入	合計		
6	16	11	0	0	0	27	15	12	0	0	0	27	14	13	0	0	0	27		
講義の進め方に関するポイントの解説	11	15	1	0	0	27	13	12	2	0	0	27	7	19	0	1	0	27		
搬送実習の進め方に関するポイントの解説	11	15	1	0	0	27	11	15	1	0	0	27	10	15	1	1	0	27		

本養成講座について	①今後、研修を行った際に役に立つ内容であったと思いますか					②今後、自分の組織の人にも参加させたいですか					③その他の研修(実践研修等)にも参加したいと思いますか							
	とても役に立つ	役に立つ	余り役に立たない	全く役に立たない	無記入	合計	参加させたい	どちらとも言えない	参加させたくない	自分が参加したくない	無記入	合計	是非参加したい	参加したい	どちらとも言えない	参加したくない	無記入	合計
7	16	10	1	0	0	27	22	3	1	1	0	27	11	10	5	0	1	27

グラフ集計

参加人数 27名 アンケート回収人数 27名（回収率 100%）





8. 講座実施状況（実践研修 医療機関の対応）



実習ロールプレイガイダンス（医師）



実習ロールプレイガイダンス（看護師）



実習ロールプレイガイダンス（技師）



実習（養生）



実習（医療対応）



振り返り

9. アンケート結果（実践研修 医療機関の対応）

平成30年度「原子力災害時の医療に関わる研修講師養成講座」実践研修（医療機関の対応）受講者アンケート集計

参加人数 35名 アンケート回収人数 35名

1	所属		病院	保健所	医師会	放射線技師会	消防	警察	自衛隊	海上保安庁	国	道府県	市町村	大学	その他	無記入	合計
	医師	合計															
	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	35

2	職種		看護師/保健師	薬剤師	診療放射線技師	臨床検査技師	海上保安官	自衛官	警察官	消防士職	救急教士	事務職員	その他	無記入	合計
	医師	合計													
	10	7	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	1	0	35

3	年齢		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	合計
	0	合計							
	0	0	12	13	10	0	0	0	35

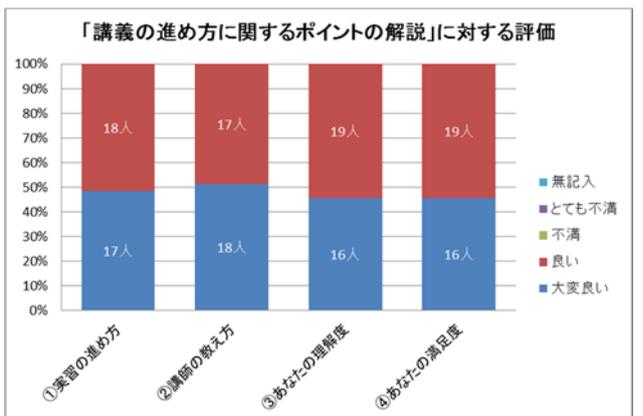
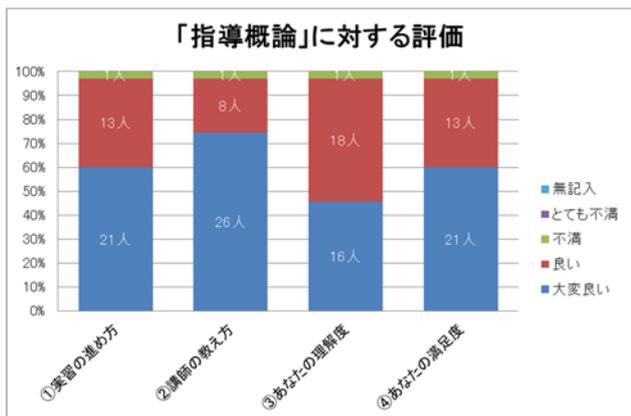
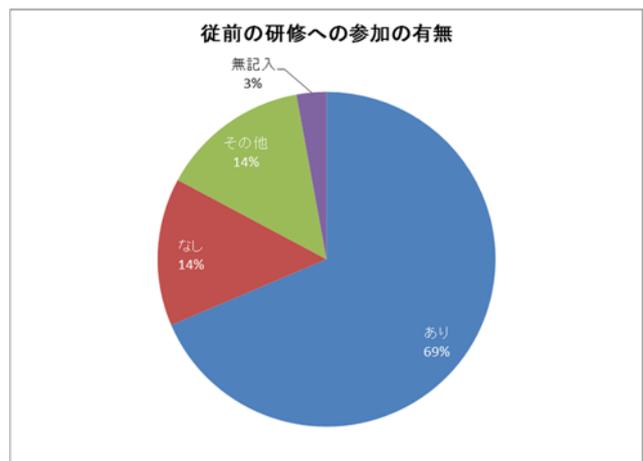
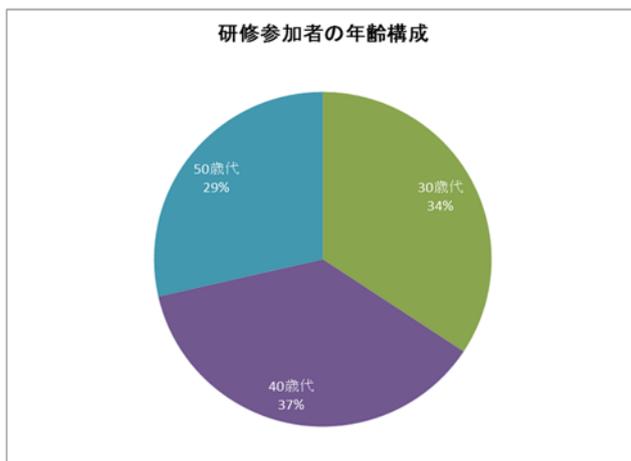
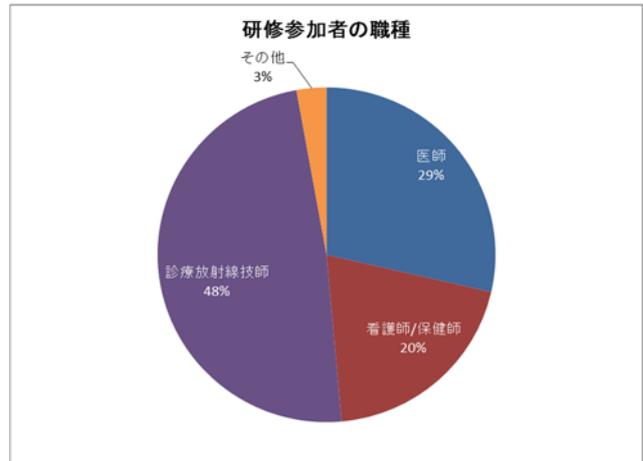
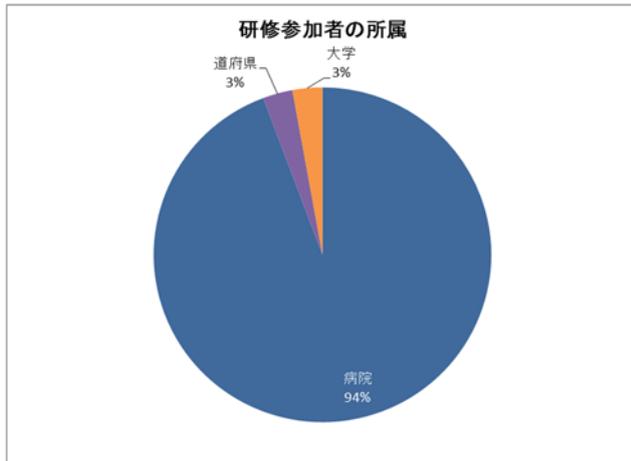
4	参加有無		あり	なし	その他	無記入	合計
	24	5					
	24	5	5	1	35		

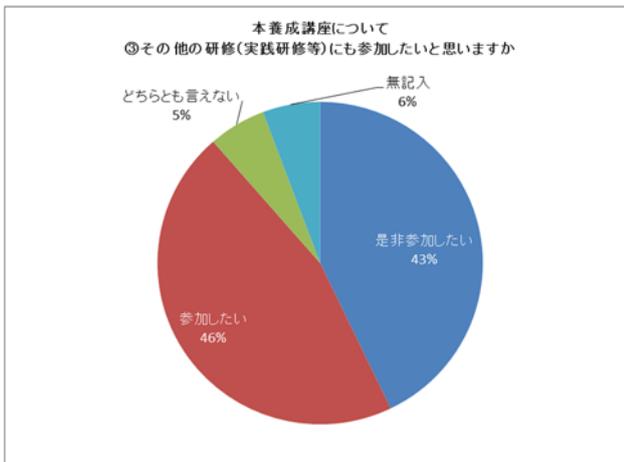
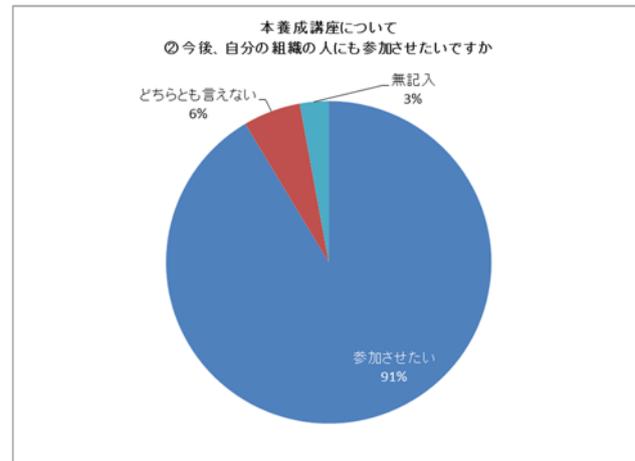
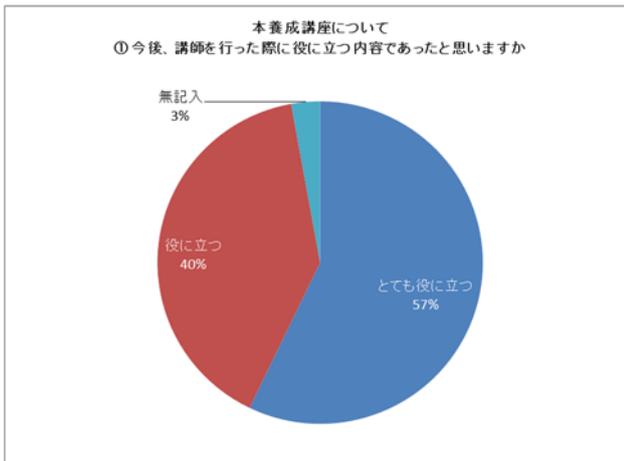
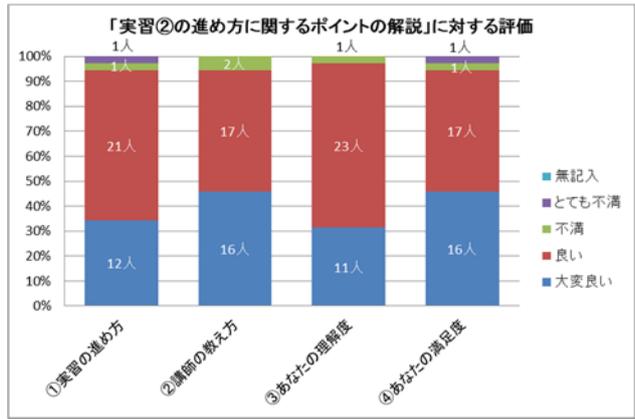
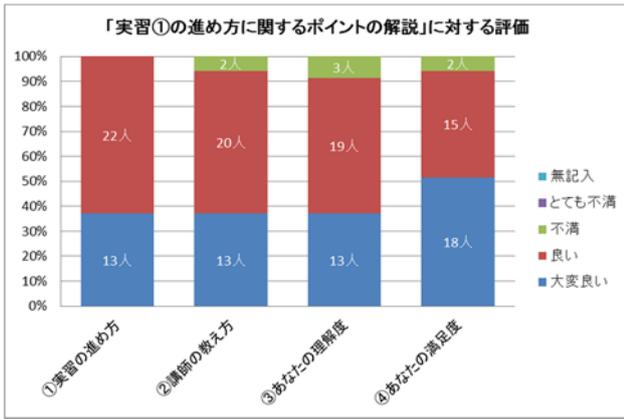
6	講義・実習評価	①実習(実習、ディスカッション、ロールプレイ)の進め方					②講師の教え方					③あなたの理解度					④あなたの満足度								
		大変良い	良い	不満	とても不満	無記入	合計	大変良い	良い	不満	とても不満	無記入	合計	大変良い	良い	不満	とても不満	無記入	合計						
	指導概論	21	13	1	0	0	35	26	8	1	0	0	35	16	18	1	0	0	35	21	13	1	0	0	35
	講義の進め方に関するポイントの解説	17	18	0	0	0	35	18	17	0	0	0	35	16	19	0	0	0	35	16	19	0	0	0	35
	実習①の進め方に関するポイントの解説	13	22	0	0	0	35	13	20	2	0	0	35	13	19	3	0	0	35	18	15	2	0	0	35
	実習②の進め方に関するポイントの解説	12	21	1	1	0	35	16	17	2	0	0	35	11	23	1	0	0	35	16	17	1	1	0	35

7	本養成講座について	①今後、講師を行った際に役に立つ内容であったと思いますか					②今後、自分の組織の人にも参加させたいですか					③その他の研修(実践研修等)にも参加したいと思いますか							
		とても役に立つ	役に立つ	余り役に立たない	全く役に立たない	無記入	合計	参加させたい	どちらとも言えない	参加させたくない	自分参加したい	無記入	合計	是非参加したい	参加したい	参加したくない	無記入	合計	
		20	14	0	0	1	35	32	2	0	0	1	35	15	16	2	0	2	35

グラフ集計

参加人数 35名 アンケート回収人数 35名（回収率 100%）





10. 講座実施状況（実践研修 安定ヨウ素剤等）



講義（安定ヨウ素剤の服用と効果）



グループワーク（検討）



グループワーク（発表）



演習（安定ヨウ素剤配布）



実習（安定ヨウ素剤緊急配布）



解説（実習）

11. アンケート結果（実践研修 安定ヨウ素剤等）

平成30年度「原子力災害時の医療に関わる研修講師養成講座」実践研修（安定ヨウ素剤等）受講者アンケート集計

参加人数 25名 アンケート回収人数 24名

所属	病院	保健所	医師会	放射線技師会	消防	警察	自衛隊	海上保安庁	国	道府県	市町村	大学	その他	無記入	合計
		11	2	0	0	0	0	0	0	0	7	0	2	2	0

職種	医師	看護師/保健師	薬剤師	診療放射線技師	臨床検査技師	海上保安官	自衛官	警察官	消防士	救急救命士	事務職員	その他	無記入	合計
		10	2	8	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0

年齢	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無記入	合計
	0	0	12	5	6	1	0	0

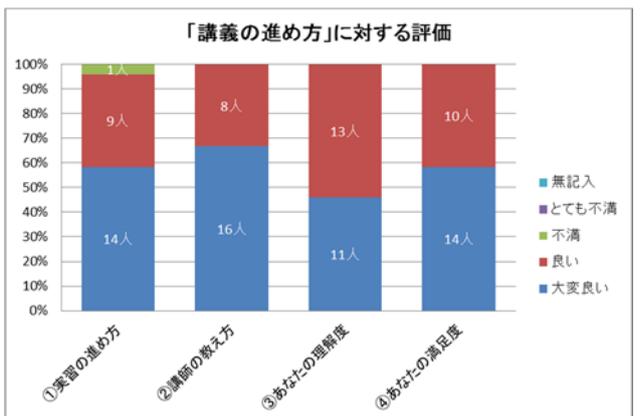
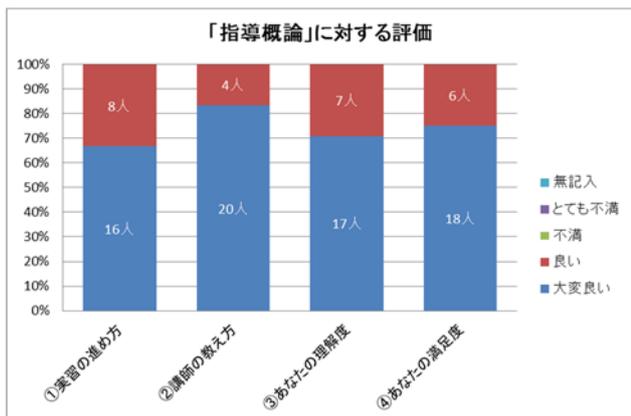
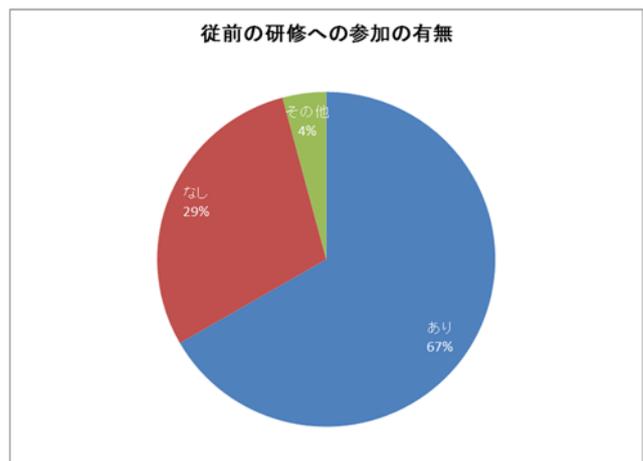
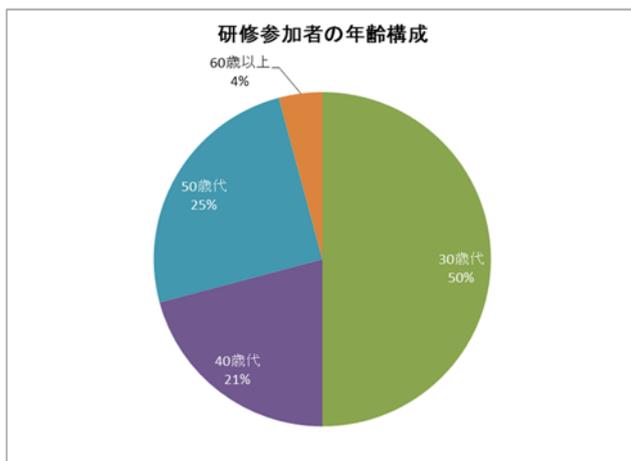
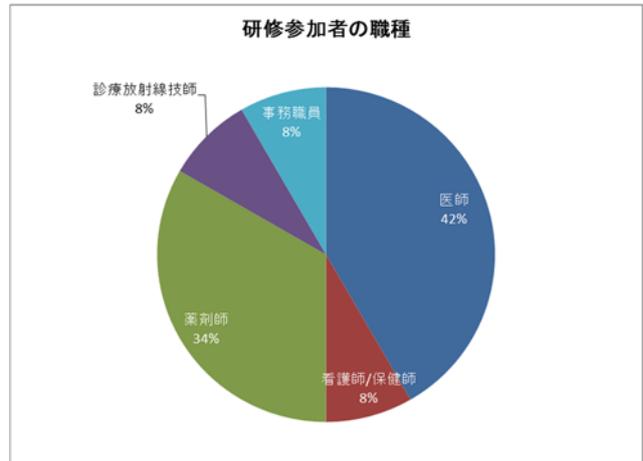
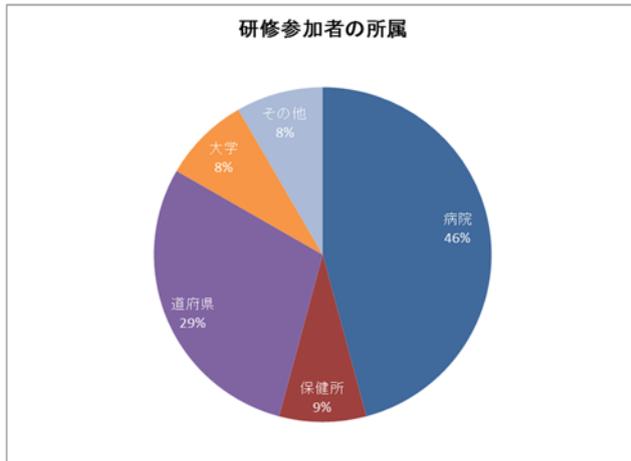
参加有無	あり	なし	その他	無記入	合計
	16	7	1	0	0

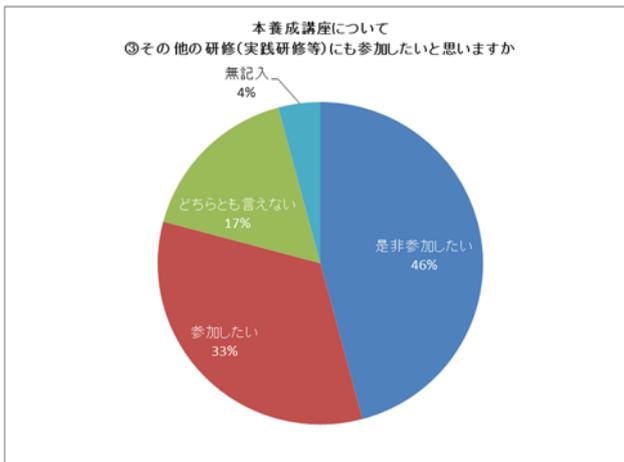
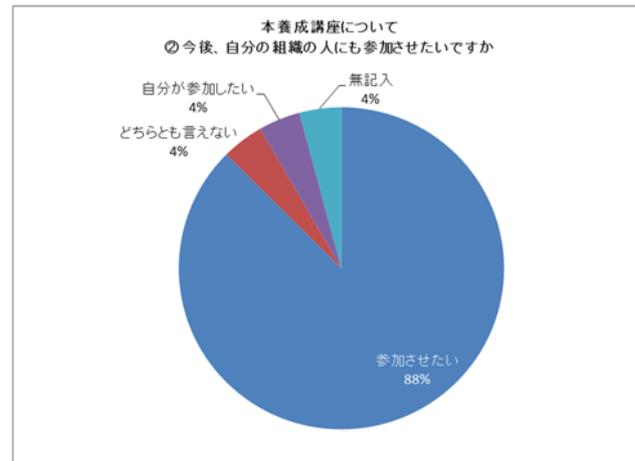
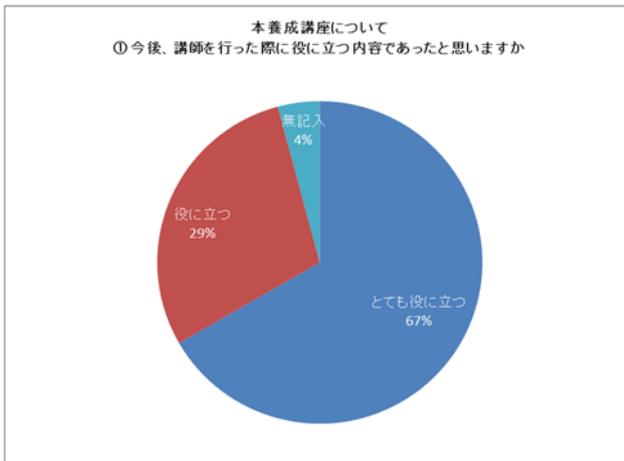
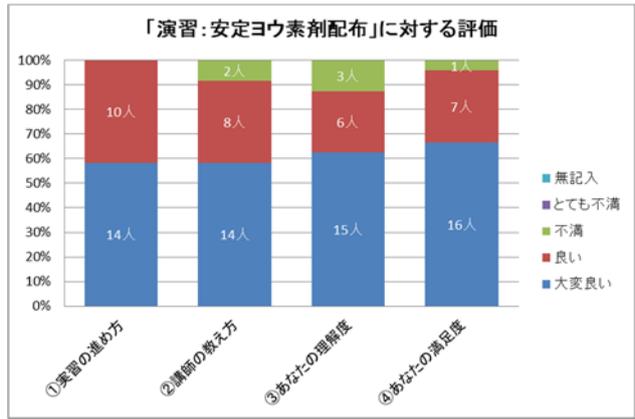
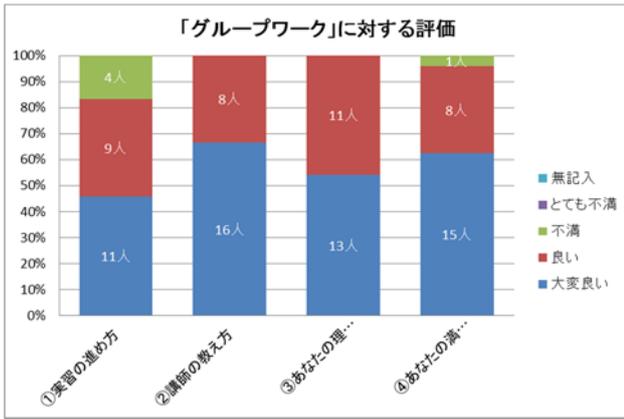
講義・実習評価	①実習（実習、ディスカッション、ロールプレイ）の進め方					②講師の教え方					③あなたの理解度					④あなたがたの満足度				
	大変良い	良い	不満	とても不満	無記入	合計	大変良い	良い	不満	とても不満	無記入	合計	大変良い	良い	不満	とても不満	無記入	合計		
指導概論	16	8	0	0	0	24	20	4	0	0	0	24	17	7	0	0	0	24		
講義の進め方	14	9	1	0	0	24	16	8	0	0	0	24	11	13	0	0	0	24		
グループワーク	11	9	4	0	0	24	16	8	0	0	0	24	13	11	0	0	0	24		
演習：安定ヨウ素剤配布	14	10	0	0	0	24	14	8	2	0	0	24	15	6	3	0	0	24		

本養成講座について	①今後、講師を行った際に役に立つ内容であったと思いますか					②今後、自分の組織の人にも参加させたいですか					③その他の研修（実践研修等）にも参加したいと思いませんか							
	とても役に立つ	役に立つ	余り役に立たない	全く役に立たない	無記入	合計	参加させたい	どちらかと言えない	参加させたくない	自分が参加したい	無記入	合計	是非参加したい	参加したい	どちらかと言えない	参加したくない	無記入	合計
	16	7	0	0	0	24	21	1	0	1	1	24	11	8	4	0	1	24

グラフ集計

参加人数 25 名 アンケート回収人数 24 名（回収率 96.0%）





12. 受講修了者アンケート調査結果

原子力災害時の医療に関わる研修講師養成講座を受講された皆様

(公財) 原子力安全研究協会
放射線災害医療研究所

《講師養成講座 受講後アンケート》

原子力災害時の医療に関わる研修講師養成講座(平成 26~29 年度)にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。本アンケートは、皆様の講座受講後のご経験、ご活動状況等を伺いたくアンケート調査を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。
※該当する箇所に☑印、もしくは必要事項をご記入下さい。

1. 受講者氏名 : _____

2. 所属、役職等について

所属 : _____

役職 : _____ TEL : _____

3. 受講後の講師の経験、活動について

①受講後、原子力災害医療に関する研修等の講師等を経験しましたか。

経験した (回) 今後する予定 (時期 :) 経験していない

②上記①で「経験した」を選択された方、以下についてご記入下さい。

a. どの様な内容でしたか。(複数回答可)

放射線の基礎知識 放射線測定 原子力災害医療 搬送
簡易除染 安定ヨウ素剤 その他 ()

b. どの様なお立場でご経験されましたか。(複数回答可)

講義の講師 実習の講師 実習の補助 その他 ()

c. 対象者はどのような方ですか。(複数回答可)

ご所属の職員 () ご所属以外の職員 ()
ご所属・ご所属以外の職員混合 ()
住民 その他 ()

③上記①で「経験していない」を選択された方、以下にご記入下さい。

時間がなかった 機会がなかった 担当業務が変わった まだ不安がある
追加研修・知識等習得後に考えたい その他 ()

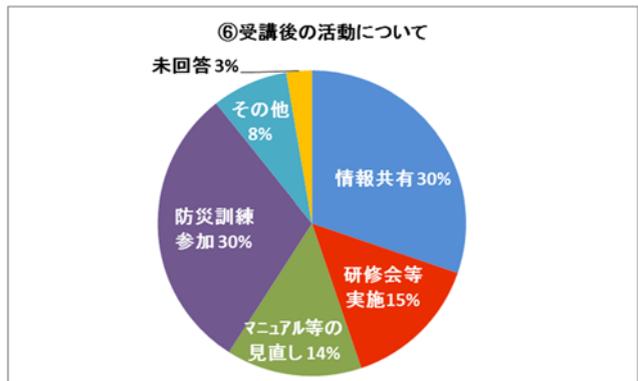
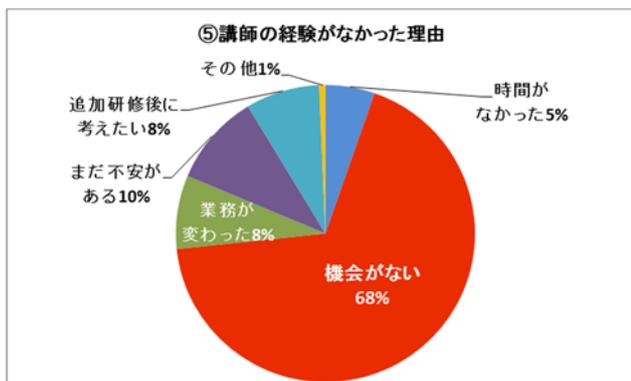
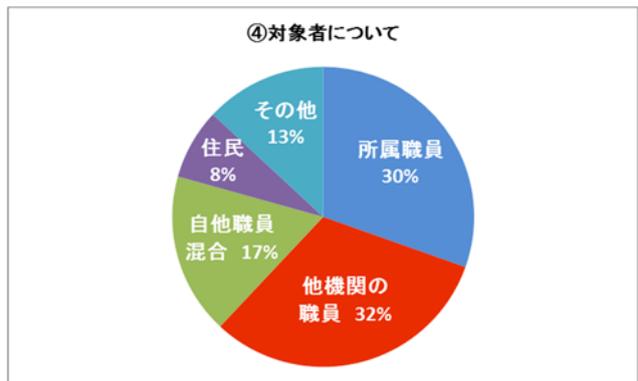
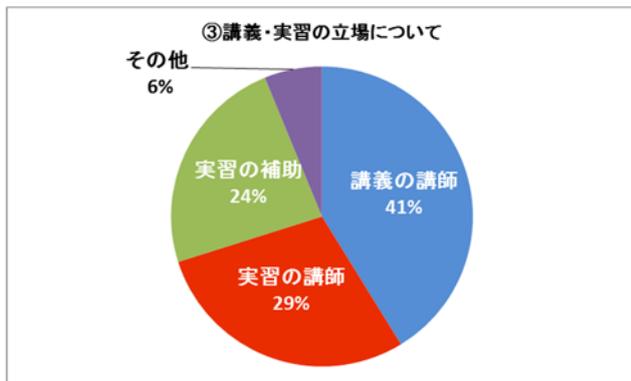
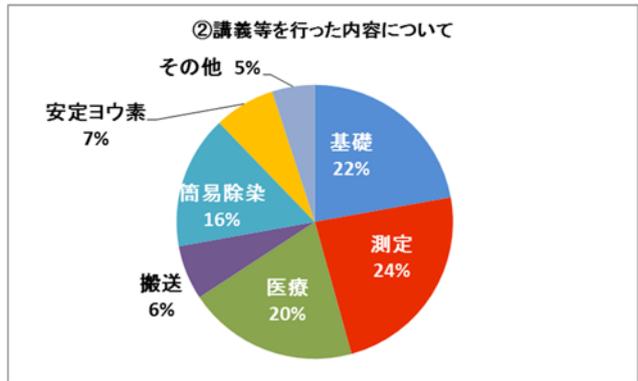
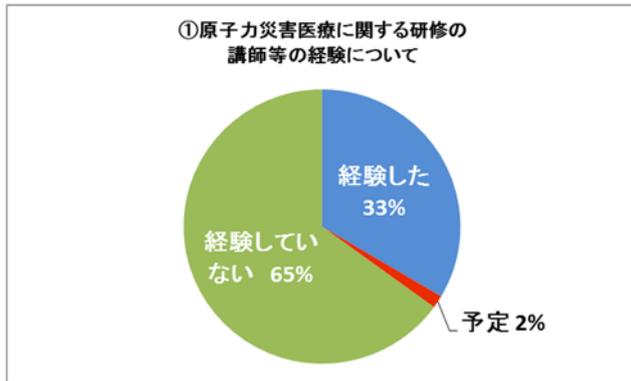
④受講後の活動について(複数回答可)

講座で得た内容の情報共有 研修会、会議等の企画・実施
資料やマニュアル等の見直し、作成 原子力防災訓練の参加
その他 ()

裏面に続きます

グラフ集計

送付先数 349 アンケート回収人数 200 名



13. 受講者の状況把握調査結果

原子力災害時の医療に関わる研修講師養成講座 受講者（将来の講師）の状況把握調査

本調査は、講師養成講座受講者に、原子炉施設等立地道府県及びその他の重点区域内の道府県において、自治体あるいは原子力災害拠点病院等が行う研修で講師をお引き受けいただけるのか、また、地域を越えての対応をお願いできるのか等をご確認させていただき、地域の原子力災害時の医療に係わる研修の充実を図るための調査です。

また、原子力規制庁等に、研修を要望する地域から、講師の紹介に関する問い合わせがあった際に、お名前を提供することについてのご確認も兼ねております。

お手数をおかけいたしますが、ご回答くださいますようお願いいたします。

該当する箇所に☑印、もしくは必要事項をご記入ください。

1. 今後、講師の依頼があった場合には、お受けいただけますか。

いいえの場合には、その理由をお書きください。

はい

いいえ

「いいえ」とされた方は、その理由をご記入ください。

2. ご自身の所属機関等の所在地域以外の地域から講師の依頼がきた場合には、お受けいただけますか。

はい

いいえ

「いいえ」とされた方は、その理由をご記入ください。

3. 講師をお受けいただく場合に、どのような時間帯が望ましいですか。

(複数回答可能)

平日 日中

平日 夜

土日祝 日中

土日祝 夜

裏面に続きます

4. 今回、受講した講師養成講座が対象とする研修以外の研修（問5に記載の研修内容）について、講師を行えますか。

はい いいえ

5. 問4で「はい」とされた方は、ご対応いただける研修内容をお選びください。（複数回答可能）

基礎研修

避難退域時検査及び簡易除染

被ばく傷病者等搬送

安定ヨウ素剤等

その他（）

6. 今後、他の講師養成講座の受講を予定、あるいは検討されている場合には、その講座名をお選びください。（複数回答可能）

講師養成講座 基礎研修

講師養成講座 実践研修（避難退域時検査及び簡易除染）

講師養成講座 実践研修（被ばく傷病者等搬送）

講師養成講座 実践研修（安定ヨウ素剤等）

7. 今後、講師のネットワーク化を行い、研修を要望する地域からの問い合わせなどに際し、お名前を提供してもよろしいでしょうか。

はい いいえ

「いいえ」とされた方は、その理由をご記入ください。

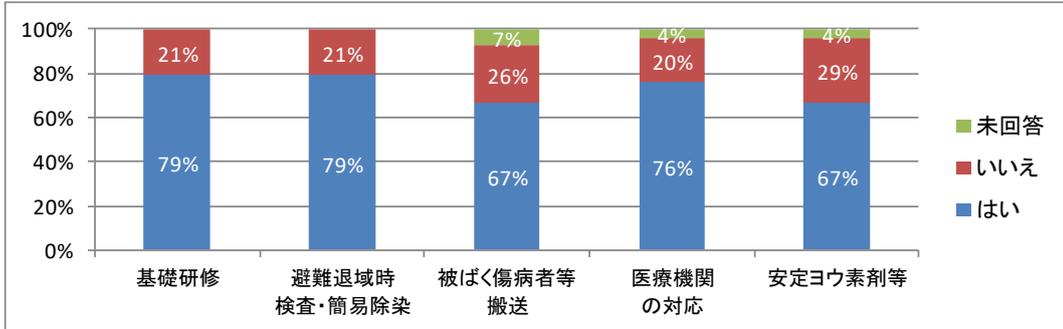
平成 年 月 日

ご所属 _____

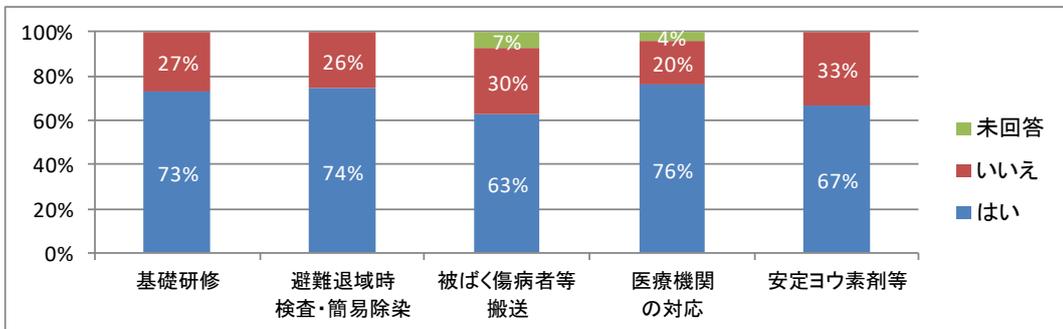
お名前 _____

H30講師養成講座 受講者(将来の講師)の状況把握調査

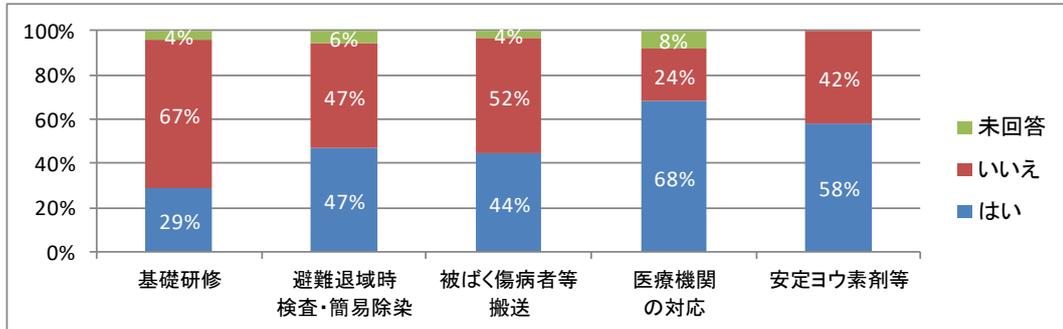
1. 今後、講師の依頼があった場合にはお受けいただけますか。



2. ご自身の所属機関等の所在地域以外の地域から講師の依頼がきた場合には、お受けいただけますか。



3. 今回、受講した講師養成講座が対象とする研修以外の研修について、講師を行えますか。



4. 今後、講師のネットワーク化を行い、研修を要望する地域からの問合せなどに際し、お名前を提供してもよろしいでしょうか。

